

科目名	撮影									
担当教員	笹崎 隆		実務授業の有無	○						
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	1	開講時期	前期・後期					
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間					
授業概要、目的、授業の進め方	<p>1. 撮影現場での事前準備が正確になおかつ迅速に出来るようになる。</p> <p>2. 撮影機材の安全な取り扱い、メンテナンスが出来るようになる。</p> <p>3. 撮影機材の特性をいかした撮影が出来るようになる。</p>									
学習目標 (到達目標)	映画の現場で、自発的に動ける人材を育てる。									
テキスト・教材・参考図書・その他資料	Filmmaker's Eye -映画のシーンに学ぶ構図と撮影術:原則とその破り方									
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考						
1	撮影基礎Ⅰ			撮影機材の基礎準備・撤収方法Ⅰ						
2	撮影基礎Ⅱ			撮影機材の基礎準備・撤収方法Ⅱ						
3	撮影基礎Ⅲ			撮影ケーブルの種類、取り扱い方法Ⅰ						
4	撮影基礎Ⅳ			撮影ケーブルの種類、取り扱い方法Ⅱ						
5	撮影基礎Ⅴ			撮影機材の種類・取り扱い方法Ⅰ						
6	撮影基礎Ⅵ			撮影機材の種類・取り扱い方法Ⅱ						
7	撮影基礎Ⅶ			撮影機材のメンテナンス方法Ⅰ						
8	撮影基礎Ⅷ			撮影機材のメンテナンス方法Ⅱ						
9	撮影実習Ⅰ			状況に応じた撮影機材の選定方法						
10	撮影実習Ⅱ			状況に応じた撮影機材の選定方法および撮影機材の設置方法						
11	撮影実習Ⅲ			画角の考え方、撮影方法Ⅰ						
12	撮影実習Ⅳ			画角の考え方、撮影方法Ⅱ						
13	撮影実習Ⅴ			画角の考え方、撮影方法Ⅲ						
14	映画制作実習Ⅰ			学生シナリオを元にした映画制作実習						
15	短編映画制作実習Ⅱ			学生シナリオを元にした映画制作実習						
16	映画制作実習Ⅲ			学生シナリオを元にした映画制作実習						
17	映画制作実習Ⅳ			短編映像制作（プレビュー）						
評価方法・成績評価基準			履修上の注意							
短編映像制作35%、実技試験35%、出席率30%			短編映像制作で学んだ知識、技術を出し切り全員で最後まで作り上げる。全ての実習項目に出席し、諦めず責任を持って参加する事。							
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。										
実務経験教員の経歴	新潟で40年以上映画・イベントのカメラマンとして活躍									

科目名	撮影							
担当教員	宮野 和真		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	2	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 撮影基礎を復習。 2. 特殊機材を使用しての実習 3. 上記を踏まえ、ストーリーの映像化							
学習目標 (到達目標)	撮影現場で他者とのイメージが共有出来、より正確に具現化する							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	撮影基礎の復習Ⅰ			撮影機材の原理・使用方法Ⅰ				
2	撮影基礎の復習Ⅱ			撮影機材の原理・使用方法Ⅱ				
3	撮影実習・技法Ⅰ			特殊機材を使用しての実習Ⅰ				
4	撮影実習・技法Ⅱ			特殊機材を使用しての実習Ⅱ				
5	撮影実習・技法Ⅲ			特殊機材を使用しての実習Ⅲ				
6	撮影実習・技法Ⅳ			特殊機材を使用しての実習Ⅳ				
7	撮影実習・技法Ⅴ			特殊機材を使用しての実習Ⅴ				
8	撮影実習・技法Ⅵ			特殊機材を使用しての実習Ⅵ				
9	撮影実習Ⅰ			既存の映像の考察及び再現Ⅰ				
10	撮影実習Ⅱ			既存の映像の考察及び再現Ⅱ				
11	撮影実習Ⅲ			既存の映像の考察及び再現Ⅲ				
12	撮影実習Ⅳ			既存の映像の考察及び再現Ⅳ				
13	映像制作実習Ⅰ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅰ				
14	映像制作実習Ⅱ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅱ				
15	映像制作実習Ⅲ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅲ				
16	映像制作実習Ⅳ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅳ				
17	映像制作実習Ⅴ			短編映像制作（プレビュー）				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%				安全かつ素早く特殊機材のセッティングおよび操作が学生自身で出来る事。学生自身が最後までシナリオを書き、尚且、映像作品として完成させる事。全ての実習項目に出席し、諦めず責任を持って参加する事。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴		国内、国外と映画・テレビカメラマンとして活躍						

科目名	撮影							
担当教員	宮野 和真		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	3	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 撮影基礎を復習。 2. 特殊機材を使用しての実習 3. 上記を踏まえ、ストーリーの映像化							
学習目標 (到達目標)	撮影現場で他者とのイメージが共有出来、より正確に具現化する							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	撮影基礎の復習Ⅰ			撮影機材の原理・使用方法Ⅰ				
2	撮影基礎の復習Ⅱ			撮影機材の原理・使用方法Ⅱ				
3	撮影実習・技法Ⅰ			特殊機材を使用しての実習Ⅰ				
4	撮影実習・技法Ⅱ			特殊機材を使用しての実習Ⅱ				
5	撮影実習・技法Ⅲ			特殊機材を使用しての実習Ⅲ				
6	撮影実習・技法Ⅳ			特殊機材を使用しての実習Ⅳ				
7	撮影実習・技法Ⅴ			特殊機材を使用しての実習Ⅴ				
8	撮影実習・技法Ⅵ			特殊機材を使用しての実習Ⅵ				
9	撮影実習Ⅰ			既存の映像の考察及び再現Ⅰ				
10	撮影実習Ⅱ			既存の映像の考察及び再現Ⅱ				
11	撮影実習Ⅲ			既存の映像の考察及び再現Ⅲ				
12	撮影実習Ⅳ			既存の映像の考察及び再現Ⅳ				
13	映像制作実習Ⅰ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅰ				
14	映像制作実習Ⅱ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅱ				
15	映像制作実習Ⅲ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅲ				
16	映像制作実習Ⅳ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅳ				
17	映像制作実習Ⅴ			短編映像制作（プレビュー）				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%				安全かつ素早く特殊機材のセッティングおよび操作が学生自身で出来る事。学生自身が最後までシナリオを書き、尚且、映像作品として完成させる事。全ての実習項目に出席し、諦めず責任を持って参加する事。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	国内、国外と映画・テレビカメラマンとして活躍							

科目名	撮影							
担当教員	宮野 和真		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	4	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 撮影基礎を復習。 2. 特殊機材を使用しての実習 3. 上記を踏まえ、ストーリーの映像化							
学習目標 (到達目標)	撮影現場で他者とのイメージが共有出来、より正確に具現化する							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	撮影基礎の復習Ⅰ			撮影機材の原理・使用方法Ⅰ				
2	撮影基礎の復習Ⅱ			撮影機材の原理・使用方法Ⅱ				
3	撮影実習・技法Ⅰ			特殊機材を使用しての実習Ⅰ				
4	撮影実習・技法Ⅱ			特殊機材を使用しての実習Ⅱ				
5	撮影実習・技法Ⅲ			特殊機材を使用しての実習Ⅲ				
6	撮影実習・技法Ⅳ			特殊機材を使用しての実習Ⅳ				
7	撮影実習・技法Ⅴ			特殊機材を使用しての実習Ⅴ				
8	撮影実習・技法Ⅵ			特殊機材を使用しての実習Ⅵ				
9	撮影実習Ⅰ			既存の映像の考察及び再現Ⅰ				
10	撮影実習Ⅱ			既存の映像の考察及び再現Ⅱ				
11	撮影実習Ⅲ			既存の映像の考察及び再現Ⅲ				
12	撮影実習Ⅳ			既存の映像の考察及び再現Ⅳ				
13	映像制作実習Ⅰ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅰ				
14	映像制作実習Ⅱ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅱ				
15	映像制作実習Ⅲ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅲ				
16	映像制作実習Ⅳ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅳ				
17	映像制作実習Ⅴ			短編映像制作（プレビュー）				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%				安全かつ素早く特殊機材のセッティングおよび操作が学生自身で出来る事。学生自身が最後までシナリオを書き、尚且、映像作品として完成させる事。全ての実習項目に出席し、諦めず責任を持って参加する事。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	国内、国外と映画・テレビカメラマンとして活躍							

科目名	シナリオ I						
担当教員	梨本 倫則		実務授業の有無	○			
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	1	開講時期	前期・後期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. シナリオの基本的な書き方を学ぶ 2. 物語の幅を広げる 3. 人間に対しての興味、深く掘り下げる習慣をつける。						
学習目標 (到達目標)	シナリオの型を学習し、ストーリーやプロットを学生自身で考えられるようにする。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	シナリオ基礎 I			シナリオとはどういうものかを、映画の脚本を読んで研究する			
2	シナリオ基礎 II			映画を観ながら、脚本の書式を学ぶ。			
3	映画シナリオ研究 I			テーマに沿った短いシナリオを書いてみる。			
4	映画シナリオ研究 II			書いた作品を見直し、どういう物語なのか、何を表現したいのかを発表する。			
5	映画シナリオ研究 III			プロットを基に構成を考えてみる			
6	シナリオ実習 I			物語の構成、時代背景、登場人物を考える			
7	シナリオ実習 II			シナリオを制作してみる			
8	シナリオ実習 III			シナリオを制作してみる			
9	シナリオ実習 IV			シナリオを制作してみる			
10	シナリオ実習 V			シナリオを制作してみる			
11	シナリオ発表			各自、シナリオ内容を発表し、学生同士でブラッシュアップを行ってみる。			
12	シナリオ演習 I			実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。			
13	シナリオ演習 II			実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。			
14	シナリオ演習 III			実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。			
15	シナリオ演習 IV			実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。			
16	シナリオ演習 V			実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。			
17	シナリオ演習 VI			修了・卒業制作に向けての準備を行う。			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
シナリオ提出70%、出席率30%			ただシナリオを書くだけでなく、キチンと取材、資料集めを行う。最終的に制作したシナリオで修了・卒業制作を行わせる。全ての実習項目に出席し、かつ全ての課題を提出すること				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。							
実務経験教員の経歴	国際的に活躍する映画監督／映像作家／写真家、日本映画監督協会員						

科目名	照明（基礎）演習						
担当教員	小峯 瞳男		実務授業の有無	○			
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	1	開講時期	前期・後期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. 照明機材の名前、種類、扱い方を学ぶ 2. 基本的な照明設計の考え方を学ぶ 3. 様々なシチュエーションの照明を作る						
学習目標 (到達目標)	監督の意図した世界を表現出来る照明スタッフを育成する。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	図解・実践 新版 映像ライティング						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	照明基礎Ⅰ			照明機材の種類、名前を学習する			
2	照明基礎Ⅱ			照明機材の種類、名前を学習する			
3	照明基礎Ⅲ			電圧の計算方法を学ぶ			
4	照明基礎Ⅳ			基本的な照明設計の考え方を学ぶ			
5	照明基礎実践Ⅰ			基本的な照明設計に基づいて、照明をセッティングしてみる			
6	照明基礎実践Ⅱ			基本的な照明設計に基づいて、照明をセッティングしてみる			
7	照明基礎実践Ⅲ			基本的な照明設計に基づいて、照明をセッティングしてみる			
8	映像照明基礎実践Ⅰ			朝の照明を作成してみる			
9	映像照明基礎実践Ⅱ			射し込みを表現してみる			
10	照明基礎Ⅴ			様々な場所の光を数値化してみる			
11	映像照明基礎実践Ⅲ			夕焼けを作成してみる			
12	映像照明基礎実践Ⅳ			夜を表現してみる			
13	照明実践Ⅰ			学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する			
14	照明実践Ⅱ			学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する			
15	照明実践Ⅲ			学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する			
16	照明実践Ⅳ			学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する			
17	照明実践Ⅴ			学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
実技試験70%、出席率30%							
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた短編映像作品を完成させること。				
実務経験教員の経歴	「仮面ライダーシリーズ」等のCM制作現場を中心とする照明技師						

科目名	照明（基礎）演習							
担当教員	小峯 瞳男		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	2	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 照明機材の名前、種類、扱い方を学ぶ 2. 基本的な照明設計の考え方を学ぶ 3. 様々なシチュエーションの照明を作る							
学習目標 (到達目標)	監督の意図した世界を表現出来る照明スタッフを育成する。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	図解・実践 新版 映像ライティング							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	照明基礎Ⅰ			照明機材の種類、名前を学習する				
2	照明基礎Ⅱ			照明機材の種類、名前を学習する				
3	照明基礎Ⅲ			電圧の計算方法を学ぶ				
4	照明基礎Ⅳ			基本的な照明設計の考え方を学ぶ				
5	照明基礎実践Ⅰ			基本的な照明設計に基づいて、照明をセッティングしてみる				
6	照明基礎実践Ⅱ			基本的な照明設計に基づいて、照明をセッティングしてみる				
7	照明基礎実践Ⅲ			基本的な照明設計に基づいて、照明をセッティングしてみる				
8	映像照明基礎実践Ⅰ			朝の照明を作成してみる				
9	映像照明基礎実践Ⅱ			射し込みを表現してみる				
10	照明基礎Ⅴ			様々な場所の光を数値化してみる				
11	映像照明基礎実践Ⅲ			夕焼けを作成してみる				
12	映像照明基礎実践Ⅳ			夜を表現してみる				
13	照明実践Ⅰ			学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する				
14	照明実践Ⅱ			学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する				
15	照明実践Ⅲ			学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する				
16	照明実践Ⅳ			学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する				
17	照明実践Ⅴ			学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
実技試験70%、出席率30%				積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた短編映像作品を完成させること。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	「仮面ライダーシリーズ」等のCM制作現場を中心とする照明技師							

科目名	照明（基礎）演習							
担当教員	小峯 瞳男		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	3	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 演出に応じた照明設計の考え方を学ぶ 2. 様々なシチュエーションの照明を作る 3. 短編～中編映像を制作する							
学習目標 (到達目標)	監督の意図した世界を表現出来る照明スタッフを育成する。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	照明演出基礎Ⅰ			演出に基づいた照明の考え方Ⅰ				
2	照明演出基礎Ⅱ			演出に基づいた照明の考え方Ⅱ				
3	照明演出基礎Ⅲ			撮影スタジオを使用し様々な照明演出方法を学ぶ				
4	照明演出基礎実践Ⅰ			撮影スタジオを使用し様々な照明演出方法を学ぶ				
5	照明演出基礎実践Ⅱ			撮影スタジオを使用し様々な照明演出方法を学ぶ				
6	照明演出基礎実践Ⅲ			デジタル一眼レフを使用し、様々な状況で撮影・照明を検証する				
7	照明演出基礎実践Ⅳ			デジタル一眼レフを使用し、様々な状況で撮影・照明を検証する				
8	映像照明基礎実践Ⅰ			役者の心理を考え、照明で表現してみる				
9	映像照明基礎実践Ⅱ			役者の心理を考え、照明で表現してみる				
10	照明基礎Ⅴ			様々な場所の光を数値化してみる				
11	映像照明基礎実践Ⅲ			役者の心理を考え、照明で表現してみる				
12	映像照明基礎実践Ⅳ			役者の心理を考え、照明で表現してみる				
13	照明実践Ⅰ			シナリオを基にした短編映像を制作する				
14	照明実践Ⅱ			シナリオを基にした短編映像を制作する				
15	照明実践Ⅲ			シナリオを基にした短編映像を制作する				
16	照明実践Ⅳ			シナリオを基にした短編映像を制作する				
17	講評会			講評会				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
実技試験70%、出席率30%								
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた短編映像作品を完成させること。				
実務経験教員の経歴	「仮面ライダーシリーズ」等のCM制作現場を中心とする照明技師							

科目名	照明（基礎）演習							
担当教員	小峯 瞳男		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	4	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 演出に応じた照明設計の考え方を学ぶ 2. 様々なシチュエーションの照明を作る 3. 短編～中編映像を制作する							
学習目標 (到達目標)	監督の意図した世界を表現出来る照明スタッフを育成する。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	照明演出基礎Ⅰ			演出に基づいた照明の考え方Ⅰ				
2	照明演出基礎Ⅱ			演出に基づいた照明の考え方Ⅱ				
3	照明演出基礎Ⅲ			撮影スタジオを使用し様々な照明演出方法を学ぶ				
4	照明演出基礎実践Ⅰ			撮影スタジオを使用し様々な照明演出方法を学ぶ				
5	照明演出基礎実践Ⅱ			撮影スタジオを使用し様々な照明演出方法を学ぶ				
6	照明演出基礎実践Ⅲ			デジタル一眼レフを使用し、様々な状況で撮影・照明を検証する				
7	照明演出基礎実践Ⅳ			デジタル一眼レフを使用し、様々な状況で撮影・照明を検証する				
8	映像照明基礎実践Ⅰ			役者の心理を考え、照明で表現してみる				
9	映像照明基礎実践Ⅱ			役者の心理を考え、照明で表現してみる				
10	照明基礎Ⅴ			様々な場所の光を数値化してみる				
11	映像照明基礎実践Ⅲ			役者の心理を考え、照明で表現してみる				
12	映像照明基礎実践Ⅳ			役者の心理を考え、照明で表現してみる				
13	照明実践Ⅰ			シナリオを基にした短編映像を制作する				
14	照明実践Ⅱ			シナリオを基にした短編映像を制作する				
15	照明実践Ⅲ			シナリオを基にした短編映像を制作する				
16	照明実践Ⅳ			シナリオを基にした短編映像を制作する				
17	講評会			講評会				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
実技試験70%、出席率30%								
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた短編映像作品を完成させること。				
実務経験教員の経歴	「仮面ライダーシリーズ」等のCM制作現場を中心とする照明技師							

科目名	音響・音声基礎									
担当教員	株式会社サウンドエイト 佐久間 敦貴		実務授業の有無	○						
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	1	開講時期	前期・後期					
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間					
授業概要、目的、授業の進め方	1. 音響機材の使用方法、名前を覚える 2. 各種ケーブルの取り扱い、取り回しを学ぶ 3. 録音機材を使用し、収録した音声を整音する									
学習目標 (到達目標)	音の性質を理解し、扱えるようになる。									
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布									
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考						
1	音響基礎実習Ⅰ			映像制作における音の役割、録音のやり方を学ぶ						
2	音響基礎実習Ⅱ			音との性質、録音技法、マイクの仕組み方法、ケーブルの種類、扱い方法を学ぶ						
3	音響基礎実習Ⅲ			録音機材の準備方法、撤収方法						
4	音響基礎実習Ⅳ			ブームの使用方法、レコーディング、ミキシング方法を学ぶ						
5	音響基礎実習Ⅴ			スタジオ録音実習						
6	音響基礎実習Ⅵ			アフレコ録音実習						
7	音響基礎実習Ⅶ			アフレコ録音実習						
8	音響基礎実習Ⅷ			効果音実習（作成および、録音、適切な選択方法）						
9	音響基礎実習Ⅸ			効果音実習（作成および、録音、適切な選択方法）						
10	音響基礎実習Ⅹ			整音実習（アフレコ素材の整音）						
11	音響基礎実習Ⅺ			整音実習（アフレコ素材の整音）						
12	音響基礎実習Ⅻ			整音実習（アフレコ素材の整音）						
13	音響仕上げ実習Ⅰ			ミックスダウンを行ってみる。						
14	音響仕上げ実習Ⅱ			ミックスダウンを行ってみる。						
15	音響効果研究Ⅰ			アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する						
16	音響効果研究Ⅱ			アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する						
17	音響効果研究Ⅲ			アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する						
評価方法・成績評価基準			履修上の注意							
実技試験70%、出席率30%			積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた短編映像作品を完成させること。							
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。										
実務経験教員の経歴	新潟市を中心にイベント、舞台等の照明・音響を手がける。									

科目名	音響・音声基礎							
担当教員	株式会社サウンドエイト 佐久間 敦貴		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	2	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 様々な演出に応じた音の効果を学ぶ 2. 録音機材を使用し、収録を行う 3. 収録した音声を整音する							
学習目標 (到達目標)	録音部として映像作りに関わり、各部署と連携して短編映像を完成させる。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	音響基礎知識Ⅰ			ENG、マルチトラック録音、ワイヤレスマイクの取り扱い。電波法を理解する。				
2	音響基礎知識Ⅱ			マルチトラック録音実践				
3	音響基礎知識Ⅲ			ENG収録実践				
4	効果音実習Ⅰ			アニメーションを使用し、アフレコ、効果音等付けてみる。				
5	効果音実習Ⅱ			アニメーションを使用し、アフレコ、効果音等付けてみる。				
6	効果音実習Ⅲ			アニメーションを使用し、アフレコ、効果音等付けてみる。				
7	録音実習Ⅰ			シナリオから短編映像制作を行う				
8	録音実習Ⅱ			シナリオを基に録音機材の機材のセッティング方法、機材の選定、操作方法の確認を行う。				
9	録音実践Ⅰ			短編映像制作				
10	録音実践Ⅱ			編集と同時に音素材収集、整音作業、監督との音設計・BGM等の打ち合わせを行う				
11	録音実践Ⅲ			編集と同時に音素材収集、整音作業、監督との音設計・BGM等の打ち合わせを行う				
12	録音実践Ⅳ			整音作業、フォーリー等仕上げ作業を行う				
13	録音実践Ⅴ			整音作業、フォーリー等仕上げ作業を行う				
14	録音実践Ⅵ			整音作業、フォーリー等仕上げ作業を行う				
15	録音実践Ⅶ			整音作業、フォーリー等仕上げ作業を行う				
16	PA実習			音響機材を使用し、マイクや操作卓のセッティング方法などを学ぶ。				
17	総評			総評				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
実技試験70%、出席率30%								
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた映像作品を完成させること。				
実務経験教員の経歴	新潟市を中心にイベント、舞台等の照明・音響を手がける。							

科目名	音響・音声基礎							
担当教員	株式会社サウンドエイト 佐久間 敦貴		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	3	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 様々な演出に応じた音の効果を学ぶ 2. 録音機材を使用し、収録を行う 3. 収録した音声を整音する							
学習目標 (到達目標)	録音部として映像作りに関わり、各部署と連携して短編・中編映像を完成させる。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	音響基礎知識Ⅰ			ENG、マルチトラック録音、ワイヤレスマイクの取り扱い。電波法を理解する。				
2	音響基礎知識Ⅱ			マルチトラック録音実践				
3	音響基礎知識Ⅲ			ENG収録実践				
4	効果音実習Ⅰ			アニメーションを使用し、アフレコ、効果音等付けてみる。				
5	効果音実習Ⅱ			アニメーションを使用し、アフレコ、効果音等付けてみる。				
6	効果音実習Ⅲ			アニメーションを使用し、アフレコ、効果音等付けてみる。				
7	録音実習Ⅰ			シナリオから短編映像制作を行う				
8	録音実習Ⅱ			シナリオを基に録音機材の機材のセッティング方法、機材の選定、操作方法の確認を行う。				
9	録音実習Ⅲ			短編・中編映像制作				
10	録音実習Ⅳ			編集と同時に音素材収集、整音作業、監督との音設計・BGM等の打ち合わせを行う				
11	録音実習Ⅴ			編集と同時に音素材収集、整音作業、監督との音設計・BGM等の打ち合わせを行う				
12	録音実習Ⅵ			整音作業、フォーリー等仕上げ作業を行う				
13	録音実習Ⅶ			整音作業、フォーリー等仕上げ作業を行う				
14	録音実習Ⅷ			整音作業、フォーリー等仕上げ作業を行う				
15	PA実習			音響機材を使用し、マイクや操作卓のセッティング方法などを学ぶ。				
16	総評			総評				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
実技試験70%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた映像作品を完成させること。				
実務経験教員の経歴	新潟市の音響、照明の会社イベントをはじめ、舞台等、照明と音響を手がける							

科目名	音響・音声基礎							
担当教員	株式会社サウンドエイト 佐久間 敦貴		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	4	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 様々な演出に応じた音の効果を学ぶ 2. 録音機材を使用し、収録を行う 3. 収録した音声を整音する							
学習目標 (到達目標)	録音部として映像作りに関わり、各部署と連携して短編・中編映像を完成させる。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	音響基礎知識Ⅰ			ENG、マルチトラック録音、ワイヤレスマイクの取り扱い。電波法を理解する。				
2	音響基礎知識Ⅱ			マルチトラック録音実践				
3	音響基礎知識Ⅲ			ENG収録実践				
4	効果音実習Ⅰ			アニメーションを使用し、アフレコ、効果音等付けてみる。				
5	効果音実習Ⅱ			アニメーションを使用し、アフレコ、効果音等付けてみる。				
6	効果音実習Ⅲ			アニメーションを使用し、アフレコ、効果音等付けてみる。				
7	録音実習Ⅰ			シナリオから短編映像制作を行う				
8	録音実習Ⅱ			シナリオを基に録音機材の機材のセッティング方法、機材の選定、操作方法の確認を行う。				
9	録音実践Ⅰ			短編・中編映像制作				
10	録音実践Ⅱ			編集と同時に音素材収集、整音作業、監督との音設計・BGM等の打ち合わせを行う				
11	録音実践Ⅲ			編集と同時に音素材収集、整音作業、監督との音設計・BGM等の打ち合わせを行う				
12	録音実践Ⅳ			整音作業、フォーリー等仕上げ作業を行う				
13	録音実践Ⅴ			整音作業、フォーリー等仕上げ作業を行う				
14	録音実践Ⅵ			整音作業、フォーリー等仕上げ作業を行う				
15	録音実践Ⅶ			整音作業、フォーリー等仕上げ作業を行う				
16	PA実習			音響機材を使用し、マイクや操作卓のセッティング方法などを学ぶ。				
17	総評			総評				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
実技試験70%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた映像作品を完成させること。				
実務経験教員の経歴	新潟市を中心にイベント、舞台等の照明・音響を手がける。							

科目名	映像編集実習						
担当教員	榎本 昭紀		実務授業の有無	○			
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	1	開講時期	前期・後期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. Macintoshの操作方法を知る 2. Final Cut Proの操作方法を学ぶ 3. Final Cut Proで映像制作を行う						
学習目標 (到達目標)	ノンリニア編集の基礎を踏まえ、タイトル、短編映像制作を通してFinal Cut Proの使い方を学習する。他の技術パートとの関連性を学び、編集の重要性を意識する。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	Macintosh操作基礎			Macintoshの操作方法、アカウントを作成してみる			
2	ノンリニア編集基礎Ⅰ			Final Cut Proの基本的な操作方法を学ぶ（各機能、画面構成、データ管理等）			
3	ノンリニア編集基礎Ⅱ			Final Cut Proの基本的な操作方法を学ぶ（各機能、画面構成、データ管理等）			
4	ノンリニア編集基礎Ⅲ			Final Cut Proの基本的な操作方法を学ぶ（各機能、画面構成、データ管理等）			
5	編集基礎Ⅰ			カット、シーンの考え方を学ぶ			
6	編集基礎Ⅱ			カット、シーンの繋ぎ方を学ぶ			
7	編集基礎Ⅲ			Final Cut Proを使用した音の整音方法を学ぶ			
8	編集基礎Ⅳ			モーションを使用したタイトルロゴを作成してみる			
9	編集基礎Ⅴ			モーションを使用したタイトルロゴを作成してみる			
10	編集実践Ⅰ			短編映像制作（撮影）			
11	編集実践Ⅱ			短編映像制作（撮影）			
12	編集実践Ⅲ			短編映像制作（編集）			
13	編集実践Ⅳ			短編映像制作（編集）			
14	編集実践Ⅴ			短編映像制作（編集）			
15	編集実践Ⅵ			短編映像制作（オールラッシュ）			
16	編集実践Ⅶ			仕上げ：編集データの書出し、カット・リスト作成、コンフォーム、グレーディング			
17	総評			上映会を行い修正点の洗い出し			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
実技試験35%、映像制作35%、出席率30%							
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、短編映像作品を完成させ提出すること。				
実務経験教員の経歴	農水協 産業用ドローンの指導員、ドローンパイロット						

科目名	映像編集実習							
担当教員	榎本 昭紀		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	3	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. Final Cut Proの効率的な編集方法を学ぶ 2. ドローンを使用した空撮実習 3. 他の技術パートとの関連性を学ぶ							
学習目標 (到達目標)	ノンリニア編集の基礎を踏まえ、タイトル、短編映像制作を通してFinal Cut Proの使い方を学習する。他の技術パートとの関連性を学び、編集の重要性を意識する。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	編集基礎Ⅰ			ノンリニア編集の復習				
2	編集実践Ⅱ			学生が撮影した映像素材を使用し、効率的な編集方法を実践してみる。				
3	編集実践Ⅲ			学生が撮影した映像素材を使用し、効率的な編集方法を実践してみる。				
4	編集実践Ⅳ			学生が撮影した映像素材を使用し、効率的な編集方法を実践してみる。				
5	編集実践Ⅴ			編集から、書出しまで行い、納品出来るよう映像作品をデータ化する				
6	空撮実習			ドローンを使用した空撮実習				
7	編集実践（応用編）Ⅰ			エフェクトを使用したタイトル制作、動画加工を学ぶ				
8	編集実践（応用編）Ⅱ			エフェクトを使用したタイトル制作、動画加工を学ぶ				
9	編集実践（応用編）Ⅲ			エフェクトを使用したタイトル制作、動画加工を学ぶ				
10	編集実践（応用編）Ⅳ			修了制作で作成した映像作品の予告編を制作する。				
11	編集実践（応用編）Ⅴ			修了制作で作成した映像作品の予告編を制作する。				
12	編集実践（応用編）Ⅵ			修了制作で作成した映像作品の予告編を制作する。				
13	短編映像制作Ⅰ			短編映像制作を行う。				
14	短編映像制作Ⅱ			短編映像制作を行う。				
15	短編映像制作Ⅲ			短編映像制作を行う。				
16	短編映像制作Ⅳ			短編映像制作を行う。				
17	総評			チェックおよび、問題点の改善				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
実技試験35%、映像制作35%、出席率30%				積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、再現映像と、短編映像作品を完成させ提出すること。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	農水協 産業用ドローンの指導員、ドローンパイロット							

科目名	映像編集実習						
担当教員	榎本 昭紀		実務授業の有無	○			
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	4	開講時期	前期・後期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. Final Cut Proの効率的な編集方法を学ぶ 2. ドローンを使用した空撮実習 3. 他の技術パートとの関連性を学ぶ						
学習目標 (到達目標)	ノンリニア編集の基礎を踏まえ、タイトル、短編映像制作を通してFinal Cut Proの使い方を学習する。他の技術パートとの関連性を学び、編集の重要性を意識する。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	編集実践Ⅰ			複数の素材を利用したFinal Cut Proでの効率的な編集方法を学ぶ（操作）			
2	編集実践Ⅱ			学生が撮影した映像素材を使用し、効率的な編集方法を実践してみる。			
3	編集実践Ⅲ			学生が撮影した映像素材を使用し、効率的な編集方法を実践してみる。			
4	編集実践Ⅳ			学生が撮影した映像素材を使用し、効率的な編集方法を実践してみる。			
5	編集実践Ⅴ			仕上げ、オーサリング、書出し、コピー			
6	空撮実習			ドローンを使用した空撮実習			
7	編集実践（応用編）Ⅰ			クロマキー、エフェクト等を使用し、高度な映像制作を行う（ドラマ、CM等の再現）			
8	編集実践（応用編）Ⅱ			クロマキー、エフェクト等を使用し、高度な映像制作を行う（ドラマ、CM等の再現）			
9	編集実践（応用編）Ⅲ			クロマキー、エフェクト等を使用し、高度な映像制作を行う（ドラマ、CM等の再現）			
10	短編・中編映像制作Ⅰ			中編・長編映像制作を行う。			
11	短編・中編映像制作Ⅱ			中編・長編映像制作を行う。			
12	短編・中編映像制作Ⅲ			中編・長編映像制作を行う。			
13	短編・中編映像制作Ⅳ			中編・長編映像制作を行う。			
14	短編・中編映像制作Ⅴ			中編・長編映像制作を行う。			
15	短編・中編映像制作Ⅵ			中編・長編映像制作を行う。			
16	短編・中編映像制作Ⅶ			中編・長編映像制作を行う。			
17	総評			上映会を行い、講評を行う			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
実技試験35%、映像制作35%、出席率30%							
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、再現映像と、短編映像作品を完成させ提出すること。				
実務経験教員の経歴	農水協 産業用ドローンの指導員、ドローンパイロット						

美術								
科目名	担当教員		Yocco (坂井 由枝)					
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	2	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 美術に必要な工具の種類、扱い方を学ぶ 2. 美術セット、衣装のイメージが出来るようになる。 3. 監督の意図する世界観を表現出来るようになる。							
学習目標 (到達目標)	映画・テレビ・ドラマで美術の仕事が出来る人材を育てる。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	美術基礎Ⅰ			美術工具の使い方①				
2	美術基礎Ⅱ			美術工具の使い方②				
3	美術研究Ⅰ			壁、人形の制作・撤収方法①				
4	美術研究Ⅱ			壁、人形の制作・撤収方法②				
5	美術制作実習Ⅰ			平台制作①				
6	美術制作実習Ⅱ			平台制作②				
7	美術制作実習Ⅲ			美術完成スケッチ制作、図面の読み方を学ぶ				
8	美術制作実習Ⅳ			完成スケッチを基に材料調べ・部品制作				
9	美術制作実習Ⅴ			平台の設置、床板張り・建て込み実習				
10	美術企画実習Ⅰ			汚し実習・小道具制作および用意				
11	美術企画実習Ⅱ			ライティング・装飾・最終仕上げ①				
12	美術企画実習Ⅲ			ライティング・装飾・最終仕上げ②				
13	シナリオ美術制作実習Ⅰ			セットで撮影を行う				
14	シナリオ美術制作実習Ⅱ			セットで撮影を行う				
15	シナリオ美術制作実習Ⅲ			セットで撮影を行う				
16	シナリオ美術制作実習Ⅳ			セットで撮影を行う				
17	総評			総評				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
前期美術制作35%、後期美術制作35%、出席率30%				自分がしたいようにでは無く、いかに監督の考え方へ寄り添えるかに重点を置く。仕事として積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、完成まで責任を持って参加する事。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴		新潟だけでなく、東京・海外でも美術、衣装制作にて活躍している。						

科目名	美術							
担当教員	Yocco (坂井 由枝)		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	3	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 美術に必要な工具の種類、扱い方を学ぶ 2. 美術セット、衣装のイメージが出来るようになる。 3. 監督の意図する世界観を表現出来るようになる。							
学習目標 (到達目標)	映画・テレビ・ドラマで美術の仕事が出来る人材を育てる。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	美術基礎Ⅰ			美術工具の使い方①				
2	美術基礎Ⅱ			美術工具の使い方②				
3	美術研究Ⅰ			壁、人形の制作・撤収方法①				
4	美術研究Ⅱ			壁、人形の制作・撤収方法②				
5	美術制作実習Ⅰ			平台制作①				
6	美術制作実習Ⅱ			平台制作②				
7	美術制作実習Ⅲ			美術完成スケッチ制作、図面の読み方を学ぶ				
8	美術制作実習Ⅳ			完成スケッチを基に材料調べ・部品制作				
9	美術制作実習Ⅴ			平台の設置、床板張り・建て込み実習				
10	美術企画実習Ⅰ			汚し実習・小道具制作および用意				
11	美術企画実習Ⅱ			ライティング・装飾・最終仕上げ①				
12	美術企画実習Ⅲ			ライティング・装飾・最終仕上げ②				
13	シナリオ美術制作実習Ⅰ			セットで撮影を行う				
14	シナリオ美術制作実習Ⅱ			セットで撮影を行う				
15	シナリオ美術制作実習Ⅲ			セットで撮影を行う				
16	シナリオ美術制作実習Ⅳ			セットで撮影を行う				
17	総評			総評				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
前期美術制作35%、後期美術制作35%、出席率30%				自分がしたいようにでは無く、いかに監督の考え方へ寄り添えるかに重点を置く。仕事として積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、完成まで責任を持って参加する事。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	新潟だけでなく、東京・海外でも美術、衣装制作にて活躍している。							

科目名	美術							
担当教員	Yocco (坂井 由枝)		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	4	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 美術に必要な工具の種類、扱い方を学ぶ 2. 美術セット、衣装のイメージが出来るようになる。 3. 監督の意図する世界観を表現出来るようになる。							
学習目標 (到達目標)	映画・テレビ・ドラマで美術の仕事が出来る人材を育てる。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	美術基礎Ⅰ			美術工具の使い方①				
2	美術基礎Ⅱ			美術工具の使い方②				
3	美術研究Ⅰ			壁、人形の制作・撤収方法①				
4	美術研究Ⅱ			壁、人形の制作・撤収方法②				
5	美術制作実習Ⅰ			平台制作①				
6	美術制作実習Ⅱ			平台制作②				
7	美術制作実習Ⅲ			美術完成スケッチ制作、図面の読み方を学ぶ				
8	美術制作実習Ⅳ			完成スケッチを基に材料調べ・部品制作				
9	美術制作実習Ⅴ			平台の設置、床板張り・建て込み実習				
10	美術企画実習Ⅰ			汚し実習・小道具制作および用意				
11	美術企画実習Ⅱ			ライティング・装飾・最終仕上げ①				
12	美術企画実習Ⅲ			ライティング・装飾・最終仕上げ②				
13	シナリオ美術制作実習Ⅰ			セットで撮影を行う				
14	シナリオ美術制作実習Ⅱ			セットで撮影を行う				
15	シナリオ美術制作実習Ⅲ			セットで撮影を行う				
16	シナリオ美術制作実習Ⅳ			セットで撮影を行う				
17	総評			総評				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
前期美術制作35%、後期美術制作35%、出席率30%				自分がしたいようにでは無く、いかに監督の考え方へ寄り添えるかに重点を置く。仕事として積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、完成まで責任を持って参加する事。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	新潟だけでなく、東京・海外でも美術、衣装制作にて活躍している。							

科目名	メイク				
担当教員	阿部 久美子		実務授業の有無	○	
対象学科	映画プロデュース科		対象学年	1	開講時期
必修・選択	必修		単位数	一	単位時間数
授業概要、目的、授業の進め方	1. メイク道具の扱い方、種類、名前を覚える 2. 演出に応じたビューティーメイクが出来るようになる。 3. 演出に応じた特殊メイク、舞台メイクが出来るようになる。				
学習目標 (到達目標)	学生自身でメイクが出来、それを活かして作品制作が出来る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	メイク基礎実習Ⅰ	メイク道具の名前、使用方法を学ぶ			
2	メイク基礎実習Ⅱ	自分たちのイメージしたメイクのデザイン画を書いてみる			
3	ビューティーメイク演習Ⅰ	イメージ画を元に、二人一組になりメイクを行う。			
4	ビューティーメイク演習Ⅱ	イメージ画を元に、二人一組になりメイクを行う。			
5	傷メイク実習	二人一組になり、傷メイクを行う			
6	メイク基礎実習Ⅲ	自分たちのイメージしたメイクのデザイン画を書いてみる。			
7	特殊メイク実習Ⅰ	イメージ画を元に、二人一組になりゾンビメイクを行う。			
8	特殊メイク実習Ⅱ	イメージ画を元に、二人一組になりゾンビメイクを行う。			
9	特殊メイク実習Ⅲ	イメージ画を元に、二人一組になりゾンビメイクを行う。			
10	メイク基礎実習Ⅳ	自分たちのイメージしたメイクのデザイン画を書いてみる			
11	舞台メイク実習Ⅰ	それぞれの役柄を設定し、舞台メイクを行ってみる。			
12	舞台メイク実習Ⅱ	それぞれの役柄を設定し、舞台メイクを行ってみる。			
13	舞台メイク実習Ⅲ	それぞれの役柄を設定し、舞台メイクを行ってみる。			
14	メイク撮影実習Ⅰ	短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。			
15	メイク撮影実習Ⅱ	短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。			
16	メイク撮影実習Ⅲ	短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。			
17	メイク撮影実習Ⅳ	短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
実技試験35%、短編映像制作35%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・ D評価を不可とする。		積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ全てのメイクを完成させること。			
実務経験教員の経歴	Hollywoodで特殊メイクを学び、ミュージックビデオや映画の特殊メイクを担当				

科目名	メイク							
担当教員	阿部 久美子		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	2	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. メイク道具の扱い方、種類、名前を覚える 2. 演出に応じたビューティーメイクが出来るようになる。 3. 演出に応じた特殊メイク、舞台メイクが出来るようになる。							
学習目標 (到達目標)	学生自身でメイクが出来、それを活かして作品制作が出来る。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	メイク基礎実習Ⅰ			メイク道具の名前、使用方法を学ぶ				
2	メイク基礎実習Ⅱ			自分たちのイメージしたメイクのデザイン画を書いてみる				
3	ビューティーメイク演習Ⅰ			イメージ画を元に、二人一組になりメイクを行う。				
4	ビューティーメイク演習Ⅱ			イメージ画を元に、二人一組になりメイクを行う。				
5	傷メイク実習			二人一組になり、傷メイクを行う				
6	メイク基礎実習Ⅲ			自分たちのイメージしたメイクのデザイン画を書いてみる。				
7	特殊メイク実習Ⅰ			イメージ画を元に、二人一組になりゾンビメイクを行う。				
8	特殊メイク実習Ⅱ			イメージ画を元に、二人一組になりゾンビメイクを行う。				
9	特殊メイク実習Ⅲ			イメージ画を元に、二人一組になりゾンビメイクを行う。				
10	メイク基礎実習Ⅳ			自分たちのイメージしたメイクのデザイン画を書いてみる				
11	舞台メイク実習Ⅰ			それぞれの役柄を設定し、舞台メイクを行ってみる。				
12	舞台メイク実習Ⅱ			それぞれの役柄を設定し、舞台メイクを行ってみる。				
13	舞台メイク実習Ⅲ			それぞれの役柄を設定し、舞台メイクを行ってみる。				
14	メイク撮影実習Ⅰ			短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。				
15	メイク撮影実習Ⅱ			短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。				
16	メイク撮影実習Ⅲ			短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。				
17	メイク撮影実習Ⅳ			短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
実技試験35%、短編映像制作35%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ全てのメイクを完成させること。				
実務経験教員の経歴	Hollywoodで特殊メイクを学び、ミュージックビデオや映画の特殊メイクを担当							

科目名	メイク							
担当教員	阿部 久美子		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	3	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. メイク道具の扱い方、種類、名前を覚える 2. 演出に応じたビューティーメイクが出来るようになる。 3. 演出に応じた特殊メイク、舞台メイクが出来るようになる。							
学習目標 (到達目標)	学生自身でメイクが出来、それを活かして作品制作が出来る。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	メイク基礎実習Ⅰ			メイク道具の名前、使用方法を学ぶ				
2	メイク基礎実習Ⅱ			自分たちのイメージしたメイクのデザイン画を書いてみる				
3	ビューティーメイク演習Ⅰ			イメージ画を元に、二人一組になりメイクを行う。				
4	ビューティーメイク演習Ⅱ			イメージ画を元に、二人一組になりメイクを行う。				
5	傷メイク実習			二人一組になり、傷メイクを行う				
6	メイク基礎実習Ⅲ			自分たちのイメージしたメイクのデザイン画を書いてみる。				
7	特殊メイク実習Ⅰ			イメージ画を元に、二人一組になりゾンビメイクを行う。				
8	特殊メイク実習Ⅱ			イメージ画を元に、二人一組になりゾンビメイクを行う。				
9	特殊メイク実習Ⅲ			イメージ画を元に、二人一組になりゾンビメイクを行う。				
10	メイク基礎実習Ⅳ			自分たちのイメージしたメイクのデザイン画を書いてみる				
11	舞台メイク実習Ⅰ			それぞれの役柄を設定し、舞台メイクを行ってみる。				
12	舞台メイク実習Ⅱ			それぞれの役柄を設定し、舞台メイクを行ってみる。				
13	舞台メイク実習Ⅲ			それぞれの役柄を設定し、舞台メイクを行ってみる。				
14	メイク撮影実習Ⅰ			短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。				
15	メイク撮影実習Ⅱ			短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。				
16	メイク撮影実習Ⅲ			短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。				
17	メイク撮影実習Ⅳ			短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
実技試験35%、短編映像制作35%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ全てのメイクを完成させること。				
実務経験教員の経歴	Hollywoodで特殊メイクを学び、ミュージックビデオや映画の特殊メイクを担当							

科目名	メイク							
担当教員	阿部 久美子		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	4	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. メイク道具の扱い方、種類、名前を覚える 2. 演出に応じたビューティーメイクが出来るようになる。 3. 演出に応じた特殊メイク、舞台メイクが出来るようになる。							
学習目標 (到達目標)	学生自身でメイクが出来、それを活かして作品制作が出来る。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	メイク基礎実習Ⅰ			メイク道具の名前、使用方法を学ぶ				
2	メイク基礎実習Ⅱ			自分たちのイメージしたメイクのデザイン画を書いてみる				
3	ビューティーメイク演習Ⅰ			イメージ画を元に、二人一組になりメイクを行う。				
4	ビューティーメイク演習Ⅱ			イメージ画を元に、二人一組になりメイクを行う。				
5	傷メイク実習			二人一組になり、傷メイクを行う				
6	メイク基礎実習Ⅲ			自分たちのイメージしたメイクのデザイン画を書いてみる。				
7	特殊メイク実習Ⅰ			イメージ画を元に、二人一組になりゾンビメイクを行う。				
8	特殊メイク実習Ⅱ			イメージ画を元に、二人一組になりゾンビメイクを行う。				
9	特殊メイク実習Ⅲ			イメージ画を元に、二人一組になりゾンビメイクを行う。				
10	メイク基礎実習Ⅳ			自分たちのイメージしたメイクのデザイン画を書いてみる				
11	舞台メイク実習Ⅰ			それぞれの役柄を設定し、舞台メイクを行ってみる。				
12	舞台メイク実習Ⅱ			それぞれの役柄を設定し、舞台メイクを行ってみる。				
13	舞台メイク実習Ⅲ			それぞれの役柄を設定し、舞台メイクを行ってみる。				
14	メイク撮影実習Ⅰ			短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。				
15	メイク撮影実習Ⅱ			短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。				
16	メイク撮影実習Ⅲ			短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。				
17	メイク撮影実習Ⅳ			短編のシナリオを作成、それを元にメイク、撮影を行う。				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
実技試験35%、短編映像制作35%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59以下)・D評価を不可とする。				積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ全てのメイクを完成させること。				
実務経験教員の経歴	Hollywoodで特殊メイクを学び、ミュージックビデオや映画の特殊メイクを担当							

科目名	ビジネス著作権				
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	×	
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 著作権の基本的知識習得を行う。 2. 前期、教科書中心に授業を行い、後期は問題集で知識習得の確認を繰り返す。 3. 実際の判決例などを取り入れ、より著作権が身近なものである工夫を行う。				
学習目標 (到達目標)	1. 著作権の基本的知識が理解出来る。2. ビジネス著作権BASIC合格を目指す。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	ビジネス著作権検定公式テキスト（ウェブ） ビジネス著作権検定初級問題集（サーティファイ）				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	著作権とは何か	イントロダクション・著作権の性質・著作権法の目的			
2	著作権で保護されるもの	著作物の定期・著作物該当性に関するその他の問題点 著作物の例示・特別な著作物 教科書P1～P19			
3	著作権は誰が持つ	著作者の定義・著作者の例外・著作者と著作権者 教科書P23～29			
4	著作権の内容 1	著作権の内容・著作権者人格権・公表権・氏名表示権・同一性保持権・一身専属性 教科書P31～P41			
5	著作権の内容 2	財産権の内容・複製権・上演権及び演奏権・上映権・公衆送信権・貸与権・譲渡権、 二次的著作権 教科書P43～P59			
6	著作権は誰が持ついつまで保護される	著作権の始期・著作権の保護期間・国際的保護 教科書P63～P69			
7	他人の著作物は勝手に使えない	著作権の譲渡・利用許諾・契約 教科書P73～P77			
8	勝手に使える場合がある	権利制限規定・私の使用・不隨的著作物・教育・図書・非営利無償の上演・演奏・引用転載 教科書P83～P101			
9	著作物を伝達する者を保護する制度	著作隣接権（実演家）（レコード製作）（放送事業者・有線放送事業者）・隣接権 保護期間 教科書P117～P129			
10	勝手に使うとどうなるか	著作権の侵害・みなし侵害・著作権侵害罪・民事的対策 教科書P133～P145			
11	著作権に関する関連制度	知的財産権制度・情報モラルと著作権 教科書P149～P155			
12	産業財産権とは	特許権・実用新案権・意匠権・商標権 プリント配布			
13	ビジネスと法・著作物に関する基礎知識・著作者とは	問題集P8～P17 確認テストおよび解答・解説			
14	著作者の権利・著作隣接権・著作権を無断で利用できる例外	問題集P18～P32 確認テストおよび解答・解説			
15	著作権の変動・著作権の侵害と権利救済・著作権法とその周辺	問題集P33～P40 確認テストおよび解答・解説			
16	模擬試験（過去問題より重要な部分を出題）	答え合わせおよび解説			
17	ビジネス著作権BASIC検定試験	直前に模擬テストおよび解説あり。			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
検定合格40%、模擬試験30%、確認テスト合計点20%、学習意欲10%		出席日数および授業態度次第では検定受験不可とする。検定合格を目指すことはもちろんですが、芸能ビジネスでは重要な知識となるので、しっかりと理解に努めること。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて23年の指導、MBAホルダー				

科目名	Word/Excel検定						
担当教員	荒川 美和		実務授業の有無	×			
対象学科	映画プロデュース科		対象学年	1	開講時期		
必修・選択	必修		単位数	一	単位時間数		
授業概要、目的、授業の進め方	1. パソコン操作の基本を学ぶ。 2. 編集機能、罫線機能、図形機能を中心にWordの基本操作を習得する。 3. 前期はテキストを中心に基礎を学び、後期は問題集を繰り返し解き認定試験合格を目指す。						
学習目標 (到達目標)	Word文書処理技能認定試験 3級合格を目標とする。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	ウィネット Word2010クイックマスター(基本編) サーティファイ Word文書処理技能認定試験 3級問題集(2010対応)						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	Wordの基本			Wordの起動・画面構成、ヘルプの使い方既存の文書を開く、画面の操作・表示モード、Wordの終了 P2~22			
2	文字の入力と編集の基本操作			新規文書の作成、日本語入力システム、文字の入力と変換、単語の登録、文書の保存、文字の選択、文字列の編集とコピー・移動 P24~52			
3	文書の編集			ページ・文字の書式設定、文字幅と文字間隔の設定、文字列の配置、字下げと行間の設定、禁則処理、罫線と網かけ P54~84			
4	文書の印刷			改ページの挿入、ヘッダーとフッターの設定、印刷イメージの確認、印刷の実行 P86~98			
5	文書の作成			入力フォーマット、段落番号の書式設定、箇条書きの設定、タブ、インデント、クリックアンドタイプ、ビジネス文書の作成例 P102~132			
6	表を使った文書の作成			表の作成、表の選択方法、表の編集、表の装飾、文字列から表を作成する P137~165			
7	図形や画像を使った文書の作成			図形の作成、図形の編集、画像の挿入、横書きテキストボックスの挿入、ワードアートの挿入 P171~208			
8	総合学習問題			総合学習問題 P210~215			
9	試験対策			練習問題 1 ~ 2 問題集P2~16			
10	試験対策			練習問題 3 ~ 4 問題集P17~29			
11	試験対策			練習問題 5 ~ 6 問題集P30~44			
12	試験対策			練習問題 7 ~ 8 問題集P45~59			
13	試験対策			模擬問題 1 問題集P76~83			
14	試験対策			模擬問題 2 問題集P84~91			
15	試験対策			模擬問題 3 問題集P92~99			
16	試験対策			模擬問題 4 問題集P100~106			
17	試験対策			模擬問題 5 問題集P107~113			
18	試験対策			模擬問題 6 問題集P114~121			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
検定合格40%、模擬試験30%、確認テスト20%、学習意欲10%			出席日数および授業態度次第では検定受験不可とする。検定合格を目指すことはもちろんですが、芸能ビジネスでは重要な知識となるので、しっかりと理解に努めること。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。							
実務経験教員の経歴							

科目名	Word/Excel検定						
担当教員	荒川 美和		実務授業の有無	×			
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	2	開講時期	前期・後期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	54時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. これまで学んだパソコン操作の復習をしながら授業を進めていく。 2. ワークシートの作成、グラフ、データベース機能を中心に基礎的なExcel活用技術を習得する。 3. 前期はテキストを中心に基礎を学び、後期は問題集を繰り返し解き認定試験合格を目指す。						
学習目標 (到達目標)	Excel表計算処理技能認定試験3級合格を目指す。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	ウィネット Excel2010クイックマスター(基本編) サーティファイ Excel表計算処理技能認定試験3級問題集(2010対応)						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	Excelの基本			Excelの起動・画面構成、ヘルプの使い方、既存ブックを開く、画面の操作、セルの選択、Excelの終了 P2~22			
2	データの編集			新規ブックの作成、データの入力、数式の入力、データの移動とコピー、ブックの保存 P24~56			
3	表の編集			罫線の設定、セルの書式設定、セルの配置、表示形式の設定、列幅や行の高さの調整、行や列の挿入と削除 P60~82			
4	ブックの印刷			表示モードの切り替え、ページ設定の変更、印刷の実行、印刷範囲の設定 P84~100			
5	グラフと図形の作成			グラフの作成、図形の作成 P104~132			
6	ブックの利用と管理			ワークシートの管理、ウィンドウの操作 P136~147			
7	関数			統計関数、数学/三角関数、論理関数、日付関数 P152~182			
8	データベース機能			リストの作成、並べ替え、条件にあったデータの抽出、小計の挿入 P184~202			
9	総合学習問題			総合学習問題 P204~207			
10	試験対策			練習問題1~2 問題集P2~11			
11	試験対策			練習問題3~4 問題集P12~21			
12	試験対策			練習問題5~6 問題集P22~32			
13	試験対策			練習問題7~8 問題集P33~41			
14	試験対策			模擬問題1 問題集P54~58			
15	試験対策			模擬問題2 問題集P59~62			
16	試験対策			模擬問題3 問題集P63~67			
17	試験対策			模擬問題4 問題集P68~72			
18	試験対策			模擬問題5 問題集P73~77			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
検定合格40%、模擬試験30%、確認テスト20%、学習意欲10%			出席日数および授業態度次第では検定受験不可とする。検定合格を目指すことはもちろんですが、芸能ビジネスでは重要な知識となるので、しっかりと理解に努めること。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。							
実務経験教員の経歴							

科目名	コミュニケーション									
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	×						
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	1	開講時期	前期・後期					
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間					
授業概要、目的、授業の進め方	1. 聞く・話すを円滑に行う知識の習得 2. 敬語（丁寧語・謙譲語・尊敬語）を理解する 3. 場に応じた正しい対応力を社会人の仕事の例を使い理解する。									
学習目標 (到達目標)	社会人に向けてのコミュニケーション能力の必要性を理解し、仕事などの場で、人間関係を構築出来る知識を得る。									
テキスト・教材・参考図書・その他資料	参考書「サーティファイ主催 コミュニケーション能力検定初級」（問題集含む）									
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考						
1	コミュニケーションとは？			P2 コミュニケーションの必要性を考える						
2	聞く力			P6～P9 目的に即して聞く						
3	聞く力			P10～P14 傾聴・質問する						
4	話す力			P15～P17 目的を意識する						
5	話す力			P18～P22 話を組み立てる						
6	話す力			P23～P29 言葉を選び抜く						
7	話す力			P30～P35 表現・伝達する						
8	実践基礎1			P36～P39 来客応対						
9	実践基礎2			P40～P43 電話応対						
10	実践基礎3			P44～P48 アポイントメント・訪問・挨拶						
11	実践基礎4			P49～P54 情報共有の重要性						
12	実践基礎5			P55～P59 チーム・コミュニケーション						
13	実践応用1			P60～P65 接客・営業						
14	実践応用2			P66～P71 クレーム対応						
15	実践応用3			P72～P77 会議・取材・ヒヤリング						
16	実践応用4			P78～P83 面接						
17	問題演習			P84～P89 模擬問題						
評価方法・成績評価基準			履修上の注意							
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%			授業では、教科書にない事例も使います。また、特に必要を感じたコミュニケーションの話しも交えながら進めて行くことで、より身近なこととして必要性を感じながら履修してください。							
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。										
実務経験教員の経歴	コミュニケーション検定授業歴15年の教員									

科目名	卒業進級制作実習									
担当教員	宮野和真		実務授業の有無	○						
対象学科	映画プロデュース科		対象学年	1	開講時期					
必修・選択	必修		単位数	一	単位時間数					
授業概要、目的、授業の進め方	1. 20日×6コマ 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施									
学習目標 (到達目標)	全期授業の集大成としての映像作品の制作および上映会									
テキスト・教材・参考図書・その他資料	映像制作に必要なテープ、画コンテ用紙などは配布します。									
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考						
1	企画書立案・協議Ⅰ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）						
2	企画書立案・協議Ⅱ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）						
3	企画書立案・協議Ⅲ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）						
4	企画書立案・協議Ⅳ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）						
5	シナリオ制作・修正Ⅰ			シナリオ制作・チェック・修正						
6	シナリオ制作・修正Ⅱ			シナリオ制作・チェック・修正						
7	シナリオ制作・修正Ⅲ			シナリオ制作・チェック・修正						
8	シナリオ制作・修正Ⅳ			シナリオ制作・チェック・修正						
9	シナリオ制作・修正Ⅴ			シナリオ制作・チェック・修正						
10	学内プレゼン・班編成			シナリオ・企画書を基にしたプレゼンおよび班分け						
11	制作準備Ⅰ			撮影・スケジュール・許可取り						
12	制作準備Ⅱ			撮影・スケジュール・許可取り						
13	制作準備Ⅲ			撮影・スケジュール・許可取り						
14	制作実践Ⅰ			撮影・編集・MA						
15	制作実践Ⅱ			撮影・編集・MA						
16	制作実践Ⅲ			撮影・編集・MA						
17	制作実践Ⅳ			撮影・編集・MA						
18	編集チェック・修正			撮影・編集・MAのチェックおよび、修正						
19	最終仕上げ			撮影・編集・MA 最終的な仕上げ						
20	作品上映会			講師および、外部ゲストを招いての講評会						
評価方法・成績評価基準			履修上の注意							
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%			・進級制作としての映像制作を体験しながら、自分自身の役割を最後まで行う事。 ・完成した作品を上映し、内部だけでなく外部評価を受ける事。							
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。										
実務経験教員の経歴		国内、国外と映画・テレビカメラマンとして活躍								

科目名	卒業進級制作実習							
担当教員	宮野和真		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	2	開講時期	後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	120時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 20日×6コマ 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施							
学習目標 (到達目標)	全期授業の集大成としての映像作品の制作および上映会							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	映像制作に必要なテープ、画コンテ用紙などは配布します。							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	企画書立案・協議Ⅰ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）				
2	企画書立案・協議Ⅱ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）				
3	企画書立案・協議Ⅲ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）				
4	企画書立案・協議Ⅳ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）				
5	シナリオ制作・修正Ⅰ			シナリオ制作・チェック・修正				
6	シナリオ制作・修正Ⅱ			シナリオ制作・チェック・修正				
7	シナリオ制作・修正Ⅲ			シナリオ制作・チェック・修正				
8	シナリオ制作・修正Ⅳ			シナリオ制作・チェック・修正				
9	シナリオ制作・修正Ⅴ			シナリオ制作・チェック・修正				
10	学内プレゼン・班編成			シナリオ・企画書を基にしたプレゼンおよび班分け				
11	制作準備Ⅰ			撮影・スケジュール・許可取り				
12	制作準備Ⅱ			撮影・スケジュール・許可取り				
13	制作準備Ⅲ			撮影・スケジュール・許可取り				
14	制作実践Ⅰ			撮影・編集・MA				
15	制作実践Ⅱ			撮影・編集・MA				
16	制作実践Ⅲ			撮影・編集・MA				
17	制作実践Ⅳ			撮影・編集・MA				
18	編集チェック・修正			撮影・編集・MAのチェックおよび、修正				
19	最終仕上げ			撮影・編集・MA 最終的な仕上げ				
20	作品上映会			講師および、外部ゲストを招いての講評会				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%				・進級制作としての映像制作を体験しながら、自分自身の役割を最後まで行う事。 ・完成した作品を上映し、内部だけでなく外部評価を受ける事。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	国内、国外と映画・テレビカメラマンとして活躍							

科目名	卒業進級制作実習							
担当教員	宮野和真		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	3	開講時期	後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	120時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 20日×6コマ 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施							
学習目標 (到達目標)	全期授業の集大成としての映像作品の制作および上映会							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	映像制作に必要なテープ、画コンテ用紙などは配布します。							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	企画書立案・協議Ⅰ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）				
2	企画書立案・協議Ⅱ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）				
3	企画書立案・協議Ⅲ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）				
4	企画書立案・協議Ⅳ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）				
5	シナリオ制作・修正Ⅰ			シナリオ制作・チェック・修正				
6	シナリオ制作・修正Ⅱ			シナリオ制作・チェック・修正				
7	シナリオ制作・修正Ⅲ			シナリオ制作・チェック・修正				
8	シナリオ制作・修正Ⅳ			シナリオ制作・チェック・修正				
9	シナリオ制作・修正Ⅴ			シナリオ制作・チェック・修正				
10	学内プレゼン・班編成			シナリオ・企画書を基にしたプレゼンおよび班分け				
11	制作準備Ⅰ			撮影・スケジュール・許可取り				
12	制作準備Ⅱ			撮影・スケジュール・許可取り				
13	制作準備Ⅲ			撮影・スケジュール・許可取り				
14	制作実践Ⅰ			撮影・編集・MA				
15	制作実践Ⅱ			撮影・編集・MA				
16	制作実践Ⅲ			撮影・編集・MA				
17	制作実践Ⅳ			撮影・編集・MA				
18	編集チェック・修正			撮影・編集・MAのチェックおよび、修正				
19	最終仕上げ			撮影・編集・MA 最終的な仕上げ				
20	作品上映会			講師および、外部ゲストを招いての講評会				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%				・進級制作としての映像制作を体験しながら、自分自身の役割を最後まで行う事。 ・完成した作品を上映し、内部だけでなく外部評価を受ける事。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	国内、国外と映画・テレビカメラマンとして活躍							

科目名	卒業進級制作実習							
担当教員	宮野和真		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	4	開講時期	後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	120時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 20日×6コマ 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施							
学習目標 (到達目標)	全期授業の集大成としての映像作品の制作および上映会							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	映像制作に必要なテープ、画コンテ用紙などは配布します。							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	企画書立案・協議Ⅰ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）				
2	企画書立案・協議Ⅱ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）				
3	企画書立案・協議Ⅲ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）				
4	企画書立案・協議Ⅳ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）				
5	シナリオ制作・修正Ⅰ			シナリオ制作・チェック・修正				
6	シナリオ制作・修正Ⅱ			シナリオ制作・チェック・修正				
7	シナリオ制作・修正Ⅲ			シナリオ制作・チェック・修正				
8	シナリオ制作・修正Ⅳ			シナリオ制作・チェック・修正				
9	シナリオ制作・修正Ⅴ			シナリオ制作・チェック・修正				
10	学内プレゼン・班編成			シナリオ・企画書を基にしたプレゼンおよび班分け				
11	制作準備Ⅰ			撮影・スケジュール・許可取り				
12	制作準備Ⅱ			撮影・スケジュール・許可取り				
13	制作準備Ⅲ			撮影・スケジュール・許可取り				
14	制作実践Ⅰ			撮影・編集・MA				
15	制作実践Ⅱ			撮影・編集・MA				
16	制作実践Ⅲ			撮影・編集・MA				
17	制作実践Ⅳ			撮影・編集・MA				
18	編集チェック・修正			撮影・編集・MAのチェックおよび、修正				
19	最終仕上げ			撮影・編集・MA 最終的な仕上げ				
20	作品上映会			講師および、外部ゲストを招いての講評会				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%				・卒業制作としての映像制作を体験しながら、自分自身の役割を最後まで行う事。 ・完成した作品を上映し、内部だけでなく外部評価を受ける事。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	国内、国外と映画・テレビカメラマンとして活躍							

科目名	映像演出（基礎）演習				
担当教員	広川一義		実務授業の有無	○	
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 柔軟な発想力を鍛える 2. 学生自身が自由な発想で演出が出来る 3. 演出したものを形にしてみる				
学習目標 (到達目標)	映像演出の概念、シナリオからテーマ・登場人物の関係を理解し、表現方法のアレンジ、強調・演出の付け方・説明的な表現の排除等を実践出来る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	企画・演出Ⅰ	班編成→企画提出→プレゼンテーション後、一次選考			
2	企画・演出Ⅱ	撮影（スチール）作品決定、企画内容修正			
3	企画・演出Ⅲ	撮影スケジュール案を提出			
4	企画・演出Ⅳ	予算、ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定			
5	企画・演出Ⅴ	撮影準備開始			
6	企画・演出Ⅵ	撮影完了			
7	映像演出（基礎）演習Ⅰ	企画内容選定（舞台制作）			
8	映像演出（基礎）演習Ⅱ	企画内容修正・制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備			
9	映像演出（基礎）演習Ⅲ	制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備			
10	映像演出（基礎）演習Ⅳ	美術・衣装・小道具打ち合わせ			
11	映像演出（基礎）演習Ⅴ	撮影スケジュールの最終決定、リハーサル			
12	映像演出（基礎）演習Ⅵ	企画を元にした映像制作もしくは舞台制作準備			
13	映像演出（基礎）演習Ⅶ	照明、美術、音響打ち合わせ			
14	映像演出（基礎）演習Ⅷ	舞台制作準備			
15	映像演出（基礎）演習Ⅸ	舞台制作準備			
16	映像演出（基礎）演習Ⅹ	舞台制作準備			
17	講評会	作品発表会			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
スチール提出35%、映像・舞台制作35%、出席率30%		グループワークとして実習に臨む。自ら意見をのべ積極的にアイデアを出し実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、企画の実現まで責任を持って参加する事。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる			

科目名	映像演出（基礎）演習							
担当教員	広川一義		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	2	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 柔軟な発想力を鍛える 2. 学生自身が自由な発想で演出が出来る 3. 演出したものを形にしてみる							
学習目標 (到達目標)	映像演出の概念、シナリオからテーマ・登場人物の関係を理解し、表現方法のアレンジ、強調・演出の付け方・説明的な表現の排除等を実践出来る。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	企画・演出Ⅰ			班編成→企画提出→プレゼンテーション後、一次選考				
2	企画・演出Ⅱ			撮影（スチール）作品決定、企画内容修正				
3	企画・演出Ⅲ			撮影スケジュール案を提出				
4	企画・演出Ⅳ			予算、ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定				
5	企画・演出Ⅴ			撮影準備開始				
6	企画・演出Ⅵ			撮影完了				
7	映像演出（基礎）演習Ⅰ			企画内容選定（舞台制作）				
8	映像演出（基礎）演習Ⅱ			企画内容修正・制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備				
9	映像演出（基礎）演習Ⅲ			制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備				
10	映像演出（基礎）演習Ⅳ			美術・衣装・小道具打ち合わせ				
11	映像演出（基礎）演習Ⅴ			撮影スケジュールの最終決定、リハーサル				
12	映像演出（基礎）演習Ⅵ			企画を元にした映像制作もしくは舞台制作準備				
13	映像演出（基礎）演習Ⅶ			照明、美術、音響打ち合わせ				
14	映像演出（基礎）演習Ⅷ			舞台制作準備				
15	映像演出（基礎）演習Ⅸ			舞台制作準備				
16	映像演出（基礎）演習Ⅹ			舞台制作準備				
17	講評会			作品発表会				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
スチール提出35%、映像・舞台制作35%、出席率30%				グループワークとして実習に臨む。自ら意見をのべ積極的にアイデアを出し実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、企画の実現まで責任を持って参加する事。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる							

科目名	映像演出（基礎）演習							
担当教員	広川一義		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	3	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 柔軟な発想力を鍛える 2. 学生自身が自由な発想で演出が出来る 3. 演出したものを形にしてみる							
学習目標 (到達目標)	映像演出の概念、シナリオからテーマ・登場人物の関係を理解し、表現方法のアレンジ、強調・演出の付け方・説明的な表現の排除等を実践出来る。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	企画・演出Ⅰ			班編成→企画提出→プレゼンテーション後、一次選考				
2	企画・演出Ⅱ			撮影（スチール）作品決定、企画内容修正				
3	企画・演出Ⅲ			撮影スケジュール案を提出				
4	企画・演出Ⅳ			予算、ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定				
5	企画・演出Ⅴ			撮影準備開始				
6	企画・演出Ⅵ			撮影完了				
7	映像演出（基礎）演習Ⅰ			企画内容選定（舞台制作）				
8	映像演出（基礎）演習Ⅱ			企画内容修正・制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備				
9	映像演出（基礎）演習Ⅲ			制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備				
10	映像演出（基礎）演習Ⅳ			美術・衣装・小道具打ち合わせ				
11	映像演出（基礎）演習Ⅴ			撮影スケジュールの最終決定、リハーサル				
12	映像演出（基礎）演習Ⅵ			企画を元にした映像制作もしくは舞台制作準備				
13	映像演出（基礎）演習Ⅶ			照明、美術、音響打ち合わせ				
14	映像演出（基礎）演習Ⅷ			舞台制作準備				
15	映像演出（基礎）演習Ⅸ			舞台制作準備				
16	映像演出（基礎）演習Ⅹ			舞台制作準備				
17	講評会			作品発表会				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
スチール提出35%、映像・舞台制作35%、出席率30%				グループワークとして実習に臨む。自ら意見をのべ積極的にアイデアを出し実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、企画の実現まで責任を持って参加する事。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる							

科目名	映像演出（基礎）演習							
担当教員	広川一義		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	4	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 柔軟な発想力を鍛える 2. 学生自身が自由な発想で演出が出来る 3. 演出したものを形にしてみる							
学習目標 (到達目標)	映像演出の概念、シナリオからテーマ・登場人物の関係を理解し、表現方法のアレンジ、強調・演出の付け方・説明的な表現の排除等を実践出来る。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	企画・演出Ⅰ			班編成→企画提出→プレゼンテーション後、一次選考				
2	企画・演出Ⅱ			撮影（スチール）作品決定、企画内容修正				
3	企画・演出Ⅲ			撮影スケジュール案を提出				
4	企画・演出Ⅳ			予算、ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定				
5	企画・演出Ⅴ			撮影準備開始				
6	企画・演出Ⅵ			撮影完了				
7	映像演出（基礎）演習Ⅰ			企画内容選定（舞台制作）				
8	映像演出（基礎）演習Ⅱ			企画内容修正・制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備				
9	映像演出（基礎）演習Ⅲ			制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備				
10	映像演出（基礎）演習Ⅳ			美術・衣装・小道具打ち合わせ				
11	映像演出（基礎）演習Ⅴ			撮影スケジュールの最終決定、リハーサル				
12	映像演出（基礎）演習Ⅵ			企画を元にした映像制作もしくは舞台制作準備				
13	映像演出（基礎）演習Ⅶ			照明、美術、音響打ち合わせ				
14	映像演出（基礎）演習Ⅷ			舞台制作準備				
15	映像演出（基礎）演習Ⅸ			舞台制作準備				
16	映像演出（基礎）演習Ⅹ			舞台制作準備				
17	講評会			作品発表会				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
スチール提出35%、映像・舞台制作35%、出席率30%				グループワークとして実習に臨む。自ら意見をのべ積極的にアイデアを出し実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、企画の実現まで責任を持って参加する事。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる							

科目名	シナリオⅡ									
担当教員	梨本 優則		実務授業の有無	○						
対象学科	映画プロデュース科		対象学年	2	開講時期					
必修・選択	必修		単位数	一	単位時間数					
授業概要、目的、授業の進め方	1. シナリオの基本的な書き方を学ぶ 2. 物語の幅を広げる 3. 人間に対しての興味、深く掘り下げる習慣をつける。									
学習目標 (到達目標)	中編・長編制作オリジナルシナリオを完成させる。原稿用紙200枚程度（おおよそ100分）の長さのオリジナルシナリオを完成させる。									
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布									
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考						
1	シナリオ基礎Ⅰ			基本的なシナリオの書き方を学ぶ						
2	シナリオ基礎Ⅱ			基本的なシナリオの書き方を学ぶ						
3	映画シナリオ研究Ⅰ			映画を観ながら、カット毎の意味を深く掘り下げる						
4	映画シナリオ研究Ⅱ			映画を観ながら、カット毎の意味を深く掘り下げる						
5	映画シナリオ研究Ⅲ			映画を観ながら、カット毎の意味を深く掘り下げる						
6	シナリオ実習Ⅰ			自分のイメージした物語をシナリオにおこしてみる。						
7	シナリオ実習Ⅱ			自分のイメージした物語をシナリオにおこしてみる。						
8	シナリオ実習Ⅲ			自分のイメージした物語をシナリオにおこしてみる。						
9	シナリオ実習Ⅳ			自分のイメージした物語をシナリオにおこしてみる。						
10	シナリオ実習Ⅴ			自分のイメージした物語をシナリオにおこしてみる。						
11	シナリオ発表			各自、ノリオ内容を発表し、学生同士でノリオノツプを行ってみる						
12	シナリオ演習Ⅰ			実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。						
13	シナリオ演習Ⅱ			実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。						
14	シナリオ演習Ⅲ			実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。						
15	シナリオ演習Ⅳ			実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。						
16	シナリオ演習Ⅴ			実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。						
17	シナリオ演習Ⅵ			修了・卒業制作に向けての準備を行う。						
評価方法・成績評価基準			履修上の注意							
シナリオ提出70%、出席率30%			ただシナリオを書くだけでなく、キッチンと取材、資料集めを行う。最終的に制作したシナリオで修了・卒業制作を行わせる。全ての実習項目に出席し、かつ全ての課題を提出すること							
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。										
実務経験教員の経歴	国際的に活躍する映画監督／映像作家／写真家、日本映画監督協会会員									

科目名	シナリオ II							
担当教員	梨本 優則		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	3	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. シナリオの基本的な書き方を学ぶ 2. 物語の幅を広げる 3. 人間に対しての興味、深く掘り下げる習慣をつける。							
学習目標 (到達目標)	中編・長編制作オリジナルシナリオを完成させる。原稿用紙200枚程度（おおよそ100分）の長さのオリジナルシナリオを完成させる。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	シナリオ基礎 I			基本的なシナリオの書き方を学ぶ				
2	シナリオ基礎 II			基本的なシナリオの書き方を学ぶ				
3	映画シナリオ研究 I			映画を観ながら、カット毎の意味を深く掘り下げる				
4	映画シナリオ研究 II			映画を観ながら、カット毎の意味を深く掘り下げる				
5	映画シナリオ研究 III			映画を観ながら、カット毎の意味を深く掘り下げる				
6	シナリオ実習 I			自分のイメージした物語をシナリオにおこしてみる。				
7	シナリオ実習 II			自分のイメージした物語をシナリオにおこしてみる。				
8	シナリオ実習 III			自分のイメージした物語をシナリオにおこしてみる。				
9	シナリオ実習 IV			自分のイメージした物語をシナリオにおこしてみる。				
10	シナリオ実習 V			自分のイメージした物語をシナリオにおこしてみる。				
11	シナリオ発表			各自、シナリオ内容を発表し、学生同士でノンツイユノンツイユを行ってみる				
12	シナリオ演習 I			実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。				
13	シナリオ演習 II			実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。				
14	シナリオ演習 III			実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。				
15	シナリオ演習 IV			実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。				
16	シナリオ演習 V			実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。				
17	シナリオ演習 VI			修了・卒業制作に向けての準備を行う。				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
シナリオ提出70%、出席率30%				ただシナリオを書くだけでなく、キチンと取材、資料集めを行う。最終的に制作したシナリオで修了・卒業制作を行わせる。全ての実習項目に出席し、かつ全ての課題を提出すること				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	国際的に活躍する映画監督／映像作家／写真家、日本映画監督協会会員							

科目名	シナリオ II							
担当教員	梨本 優則		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	4	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. シナリオの基本的な書き方を学ぶ 2. 物語の幅を広げる 3. 人間に対しての興味、深く掘り下げる習慣をつける。							
学習目標 (到達目標)	中編・長編制作オリジナルシナリオを完成させる。原稿用紙200枚程度（およそ100分）の長さのオリジナルシナリオを完成させる。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	シナリオ基礎 I			基本的なシナリオの書き方を学ぶ				
2	シナリオ基礎 II			基本的なシナリオの書き方を学ぶ				
3	映画シナリオ研究 I			映画を観ながら、カット毎の意味を深く掘り下げる				
4	映画シナリオ研究 II			映画を観ながら、カット毎の意味を深く掘り下げる				
5	映画シナリオ研究 III			映画を観ながら、カット毎の意味を深く掘り下げる				
6	シナリオ実習 I			自分のイメージした物語をシナリオにおこしてみる。				
7	シナリオ実習 II			自分のイメージした物語をシナリオにおこしてみる。				
8	シナリオ実習 III			自分のイメージした物語をシナリオにおこしてみる。				
9	シナリオ実習 IV			自分のイメージした物語をシナリオにおこしてみる。				
10	シナリオ実習 V			自分のイメージした物語をシナリオにおこしてみる。				
11	シナリオ発表			各自、シナリオ内容を発表し、学生同士でノック・ユーノップを行ってみる				
12	シナリオ演習 I			実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。				
13	シナリオ演習 II			実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。				
14	シナリオ演習 III			実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。				
15	シナリオ演習 IV			実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。				
16	シナリオ演習 V			実際に撮影する事を想定した内容に変更してみる。				
17	シナリオ演習 VI			修了・卒業制作に向けての準備を行う。				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
シナリオ提出70%、出席率30%				ただシナリオを書くだけでなく、キチンと取材、資料集めを行う。最終的に制作したシナリオで修了・卒業制作を行わせる。全ての実習項目に出席し、かつ全ての課題を提出すること				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	国際的に活躍する映画監督／映像作家／写真家、日本映画監督協会会員							

映画批評									
科目名	野上 純嗣		実務授業の有無	○					
担当教員	映画プロデュース科		対象学年	2	開講時期				
対象学科	必修		単位数	一	前期・後期				
必修・選択	授業概要、目的、授業の進め方								
授業概要、目的、授業の進め方		1. 幅広い映画・映像作品に触れ表現の幅を広げる 2. 映画・映像に対する自分なりの考え方を持つ 3. 映像制作における共通言語を持つ							
学習目標 (到達目標)	それぞれの時代の映画監督が、多種多様な創造性を發揮して新しい表現方法を発見していったのかを知り、自分の作品制作に活かせるようになる。								
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布								
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考					
1	映画・映像批評（前期）Ⅰ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（サイレント）					
2	映画・映像批評（前期）Ⅱ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（ドキュメンタリー）					
3	映画・映像批評（前期）Ⅲ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（時代劇）					
4	映画・映像批評（前期）Ⅳ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（邦画作品）					
5	映画・映像批評（前期）Ⅴ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（洋画作品）					
6	映画・映像批評（前期）Ⅵ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（ジャバニーズ・ホラー）					
7	映画・映像批評（前期）Ⅶ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（B級ホラー）					
8	映画・映像批評（前期）Ⅷ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（アクション）					
9	映画・映像批評（前期）Ⅸ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（恋愛映画）					
10	映画・映像批評（後期）Ⅰ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（特撮映画）					
11	映画・映像批評（後期）Ⅱ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（コメディー映画）					
12	映画・映像批評（後期）Ⅲ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（プロモーション映像）					
13	映画・映像批評（後期）Ⅳ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（コマーシャル研究）					
14	映画・映像批評（後期）Ⅴ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（特撮映画）					
15	映画・映像批評（後期）Ⅵ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（戦争映画）					
16	映画・映像批評（後期）Ⅶ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（邦画作品）					
17	映画・映像批評（後期）Ⅷ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（洋画作品）					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意						
レポート70%、出席率30%			17回すべての授業に出席し、尚且かならずレポートを提出する事。						
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。									
実務経験教員の経歴	イメージフォーラムで入賞、大学での講義、20年以上映画監督として活動している								

映画批評										
科目名										
担当教員	野上 純嗣		実務授業の有無	○						
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	3	開講時期	前期・後期					
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間					
授業概要、目的、授業の進め方	1. 幅広い映画・映像作品に触れ表現の幅を広げる 2. 映画・映像に対する自分なりの考えを持つ 3. 映像制作における共通言語を持つ									
学習目標 (到達目標)	それぞれの時代の映画監督が、多種多様な創造性を発揮して新しい表現方法を発見していったのかを知り、自分の作品制作に活かせるようになる。									
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布									
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考						
1	映画・映像批評（前期）I			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（サイレント）						
2	映画・映像批評（前期）II			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（ドキュメンタリー）						
3	映画・映像批評（前期）III			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（時代劇）						
4	映画・映像批評（前期）IV			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（邦画作品）						
5	映画・映像批評（前期）V			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（洋画作品）						
6	映画・映像批評（前期）VI			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（ジャバニーズ・ホラー）						
7	映画・映像批評（前期）VII			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（B級ホラー）						
8	映画・映像批評（前期）VIII			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（アクション）						
9	映画・映像批評（前期）IX			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（恋愛映画）						
10	映画・映像批評（後期）I			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（特撮映画）						
11	映画・映像批評（後期）II			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（コメディー映画）						
12	映画・映像批評（後期）III			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（プロモーション映像）						
13	映画・映像批評（後期）IV			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（コマーシャル研究）						
14	映画・映像批評（後期）V			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（特撮映画）						
15	映画・映像批評（後期）VI			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（戦争映画）						
16	映画・映像批評（後期）VII			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（邦画作品）						
17	映画・映像批評（後期）VIII			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（洋画作品）						
評価方法・成績評価基準			履修上の注意							
レポート70%、出席率30%			17回すべての授業に出席し、尚且かならずレポートを提出すること。							
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。										
実務経験教員の経歴	イメージフォーラムで入賞、大学での講義、20年以上映画監督として活動している									

科目名	映画批評							
担当教員	野上 純嗣		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	4	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 幅広い映画・映像作品に触れ表現の幅を広げる 2. 映画・映像に対する自分なりの考えを持つ 3. 映像制作における共通言語を持つ							
学習目標 (到達目標)	それぞれの時代の映画監督が、多種多様な創造性を発揮して新しい表現方法を発見していったのかを知り、自分の作品制作に活かせるようになる。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	映画・映像批評（前期）I			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（サイレント）				
2	映画・映像批評（前期）II			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（ドキュメンタリー）				
3	映画・映像批評（前期）III			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（時代劇）				
4	映画・映像批評（前期）IV			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（邦画作品）				
5	映画・映像批評（前期）V			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（洋画作品）				
6	映画・映像批評（前期）VI			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（ジャバニーズ・ホラー）				
7	映画・映像批評（前期）VII			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（B級ホラー）				
8	映画・映像批評（前期）VIII			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（アクション）				
9	映画・映像批評（前期）IX			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（恋愛映画）				
10	映画・映像批評（後期）I			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（特撮映画）				
11	映画・映像批評（後期）II			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（コメディー映画）				
12	映画・映像批評（後期）III			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（プロモーション映像）				
13	映画・映像批評（後期）IV			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（コマーシャル研究）				
14	映画・映像批評（後期）V			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（特撮映画）				
15	映画・映像批評（後期）VI			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（戦争映画）				
16	映画・映像批評（後期）VII			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（邦画作品）				
17	映画・映像批評（後期）VIII			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（洋画作品）				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
レポート70%、出席率30%				17回すべての授業に出席し、尚且かならずレポートを提出する事。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	イメージフォーラムで入賞、大学での講義、20年以上映画監督として活動している							

科目名	PhotoShop							
担当教員	広川 一義		実務授業の有無	×				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	1	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. Photoshopの基本的な使用方法 2. Photoshopを使用した画像加工、タイトルロゴ作成 3. Photoshopを使用したポスター制作							
学習目標 (到達目標)	Photoshopを使用し、番組テロップ、映画ポスターの作成が出来る。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	Adobe Photoshop とは			Adobe Photoshopの機能概要				
2	Photoshop基本操作 I			Adobe Photoshopの起動方法、ファイルの保存方法				
3	Photoshop基本操作 II			Photoshopインターフェイスを知る、画面表示と色の選択方法を知る				
4	Photoshop基本操作 III			Photoshopの環境設定を学ぶ、ツールバーの機能を学ぶ				
5	Photoshop基本操作 IV			ツールバーの機能を学ぶ (選択ツール)				
6	Photoshop基本操作 V			ツールバーの機能を学ぶ (マスクモード、アルファチャンネル)				
7	Photoshop基本操作 VI			ツールバーの機能を学ぶ (画像解像度とサイズ変更)				
8	Photoshop基本操作 VII			ツールバーの機能を学ぶ (コピー & ベースト、拡大、縮小等)				
9	Photoshop基本操作 VIII			ツールバーの機能を学ぶ (カラーモードの変更)				
10	Photoshop基本操作 IX			ツールバーの機能を学ぶ (ペイント機能、レタッチ機能)				
11	Photoshop基本操作 X			ツールバーの機能を学ぶ (レイヤー操作、パスとシェイプ)				
12	Photoshop基本操作 XI			ツールバーの機能を学ぶ (テキストデザイン、文字の加工、各種フィルタ)				
13	Photoshop実習 I			フォトレタッチ				
14	Photoshop実習 II			フォトレタッチ				
15	Photoshop実習 III			ロゴデザイン				
16	Photoshop実習 IV			フォトコラージュ				
17	Photoshop実習 V			フォトコラージュ				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
実技試験70%、出席率30%				積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、実習課題を完成させ提出すること。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる							

科目名	映画・映像制作							
担当教員	井上 朗子		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科		対象学年	1	開講時期			
必修・選択	必修		単位数	一	単位時間数			
授業概要、目的、授業の進め方	1. シナリオ制作を行う 2. 各授業で学んだ技術を総合的に使用してみる 3. グループワークで1つの映像作品として完成させる							
学習目標 (到達目標)	撮影・照明・編集・企画の授業の関連性を学生に持たせる。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	シナリオ制作Ⅰ			シナリオの作り方を学ぶ				
2	映画・映像制作基礎知識Ⅰ			撮影・照明・録音・制作・演出・美術等各部署の役割を学ぶ				
3	シナリオ制作Ⅱ			各個人、個人でシナリオの作成を行う				
4	シナリオ制作Ⅲ			各個人、個人でシナリオの作成を行う				
5	シナリオ制作Ⅳ			シナリオチェック、ダメ出し				
6	シナリオ制作Ⅴ			各個人、個人でシナリオの作成を行う				
7	シナリオ制作Ⅵ			シナリオ決定稿提出				
8	映画・映像制作基礎知識Ⅱ			ロケハンの注意点、考え方				
9	映画・映像制作基礎知識Ⅲ			マイク・美術の考え方				
10	制作実習Ⅰ			撮影場所、キャスト、予算等を決める				
11	制作実習Ⅱ			スケジュール、撮影場所、キャスト、予算等の調整、交渉、許可取りを行う				
12	制作実習Ⅲ			カメラテスト・衣装合わせ・小道具・リハーサル等準備				
13	撮影実習Ⅰ			撮影				
14	撮影実習Ⅱ			撮影				
15	編集実習Ⅰ			撮影				
16	編集実習Ⅱ			取り込み方法・仕上げ方法講義				
17	編集実習Ⅲ			編集したものを納品出来る形態にする。				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
シナリオ提出70%、出席率30%				一人、一作品必ずシナリオを提出する事。コンペで通らなくても、最後まで映像作品を完成させる事。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	元にいがた映画塾代表、新潟で20年以上映画監督としても活躍している							

科目名	映画・映像制作							
担当教員	井上 朗子		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	2	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. シナリオ制作を行う 2. 各授業で学んだ技術を総合的に使用してみる 3. グループワークで1つの映像作品として完成させる							
学習目標 (到達目標)	撮影・照明・編集・企画の授業の関連性を学生に持たせる。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	シナリオ制作Ⅰ			シナリオの作り方を学ぶ				
2	映画・映像制作基礎知識Ⅰ			撮影・照明・録音・制作・演出・美術等各部署の役割を学ぶ				
3	シナリオ制作Ⅱ			各個人、個人でシナリオの作成を行う				
4	シナリオ制作Ⅲ			各個人、個人でシナリオの作成を行う				
5	シナリオ制作Ⅳ			シナリオチェック、ダメ出し				
6	シナリオ制作Ⅴ			各個人、個人でシナリオの作成を行う				
7	シナリオ制作Ⅵ			シナリオ決定稿提出				
8	映画・映像制作基礎知識Ⅱ			ロケハンの注意点、考え方				
9	映画・映像制作基礎知識Ⅲ			マイク・美術の考え方				
10	制作実習Ⅰ			撮影場所、キャスト、予算等を決める				
11	制作実習Ⅱ			スケジュール、撮影場所、キャスト、予算等の調整、交渉、許可取りを行う				
12	制作実習Ⅲ			カメラテスト・衣装合わせ・小道具・リハーサル等準備				
13	撮影実習Ⅰ			撮影				
14	撮影実習Ⅱ			撮影				
15	編集実習Ⅰ			撮影				
16	編集実習Ⅱ			取り込み方法・仕上げ方法講義				
17	編集実習Ⅲ			編集したものを納品出来る形態にする。				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
シナリオ提出70%、出席率30%				一人、一作品必ずシナリオを提出する事。コンペで通らなくても、最後まで映像作品を完成させる事。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴		元にいがた映画塾代表、新潟で20年以上映画監督としても活躍している						

科目名	映画・映像制作							
担当教員	井上 朗子		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	3	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. シナリオ制作を行う 2. 各授業で学んだ技術を総合的に使用してみる 3. グループワークで1つの映像作品として完成させる							
学習目標 (到達目標)	撮影・照明・編集・企画の授業の関連性を学生に持たせる。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	シナリオ制作Ⅰ			シナリオの作り方を学ぶ				
2	映画・映像制作基礎知識Ⅰ			撮影・照明・録音・制作・演出・美術等各部署の役割を学ぶ				
3	シナリオ制作Ⅱ			各個人、個人でシナリオの作成を行う				
4	シナリオ制作Ⅲ			各個人、個人でシナリオの作成を行う				
5	シナリオ制作Ⅳ			シナリオチェック、ダメ出し				
6	シナリオ制作Ⅴ			各個人、個人でシナリオの作成を行う				
7	シナリオ制作Ⅵ			シナリオ決定稿提出				
8	映画・映像制作基礎知識Ⅱ			ロケハンの注意点、考え方				
9	映画・映像制作基礎知識Ⅲ			マイク・美術の考え方				
10	制作実習Ⅰ			撮影場所、キャスト、予算等を決める				
11	制作実習Ⅱ			スケジュール、撮影場所、キャスト、予算等の調整、交渉、許可取りを行う				
12	制作実習Ⅲ			カメラテスト・衣装合わせ・小道具・リハーサル等準備				
13	撮影実習Ⅰ			撮影				
14	撮影実習Ⅱ			撮影				
15	編集実習Ⅰ			撮影				
16	編集実習Ⅱ			取り込み方法・仕上げ方法講義				
17	編集実習Ⅲ			編集したものを納品出来る形態にする。				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
シナリオ提出70%、出席率30%				一人、一作品必ずシナリオを提出する事。コンペで通らなくとも、最後まで映像作品を完成させる事。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	元にいがた映画塾代表、新潟で20年以上映画監督としても活躍している							

科目名	映画・映像制作							
担当教員	井上 朗子		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	4	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. シナリオ制作を行う 2. 各授業で学んだ技術を総合的に使用してみる 3. グループワークで1つの映像作品として完成させる							
学習目標 (到達目標)	撮影・照明・編集・企画の授業の関連性を学生に持たせる。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	シナリオ制作Ⅰ			シナリオの作り方を学ぶ				
2	映画・映像制作基礎知識Ⅰ			撮影・照明・録音・制作・演出・美術等各部署の役割を学ぶ				
3	シナリオ制作Ⅱ			各個人、個人でシナリオの作成を行う				
4	シナリオ制作Ⅲ			各個人、個人でシナリオの作成を行う				
5	シナリオ制作Ⅳ			シナリオチェック、ダメ出し				
6	シナリオ制作Ⅴ			各個人、個人でシナリオの作成を行う				
7	シナリオ制作Ⅵ			シナリオ決定稿提出				
8	映画・映像制作基礎知識Ⅱ			ロケハンの注意点、考え方				
9	映画・映像制作基礎知識Ⅲ			マイク・美術の考え方				
10	制作実習Ⅰ			撮影場所、キャスト、予算等を決める				
11	制作実習Ⅱ			スケジュール、撮影場所、キャスト、予算等の調整、交渉、許可取りを行う				
12	制作実習Ⅲ			カメラテスト・衣装合わせ・小道具・リハーサル等準備				
13	撮影実習Ⅰ			撮影				
14	撮影実習Ⅱ			撮影				
15	編集実習Ⅰ			撮影				
16	編集実習Ⅱ			取り込み方法・仕上げ方法講義				
17	編集実習Ⅲ			編集したものを納品出来る形態にする。				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
シナリオ提出70%、出席率30%				一人、一作品必ずシナリオを提出する事。コンペで通らなくとも、最後まで映像作品を完成させる事。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	元にいがた映画塾代表、新潟で20年以上映画監督としても活躍している							

科目名	映像概論						
担当教員	宮野 和真		実務授業の有無	○			
対象学科	映画プロデュース科		対象学年	1	開講時期		
必修・選択	必修		単位数	一	単位時間数		
授業概要、目的、授業の進め方	1. 撮影機材の名称及び使用方法を覚える。 2. 撮影前の機材チェックや安全な取り扱い、撮影後の機材メンテナンス、機材収納の整理整頓。 3. カメラのポジショニング、画角、基本オペレーティング（実技講習）						
学習目標 (到達目標)	責任を持って機材を使用し管理できる。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	撮影基礎Ⅰ			撮影機材の名称・使用方法Ⅰ			
2	撮影基礎Ⅱ			撮影機材の名称・使用方法Ⅱ			
3	撮影基礎Ⅲ			撮影機材の名称・使用方法Ⅲ			
4	撮影基礎Ⅳ			撮影ケーブルの種類、取り扱い方法Ⅰ			
5	撮影基礎Ⅴ			撮影ケーブルの種類、取り扱い方法Ⅱ			
6	撮影基礎Ⅵ			撮影ケーブルの種類、取り扱い方法Ⅲ			
7	撮影基礎Ⅶ			撮影機材のメンテナンス方法Ⅰ			
8	撮影基礎Ⅷ			撮影機材のメンテナンス方法Ⅱ			
9	撮影基礎Ⅸ			撮影機材のメンテナンス方法Ⅲ			
10	撮影実習Ⅰ			状況に応じた撮影機材の選定方法			
11	撮影実習Ⅱ			撮影機材の設置方法Ⅰ			
12	撮影実習Ⅲ			撮影機材の設置方法Ⅱ			
13	撮影実習Ⅳ			画角の考え方、撮影方法Ⅰ			
14	撮影実習Ⅴ			画角の考え方、撮影方法Ⅱ			
15	短編映画制作実習Ⅰ			短編映像制作Ⅰ			
16	短編映画制作実習Ⅱ			短編映像制作Ⅱ			
17	短編映画制作実習Ⅲ			短編映像制作（プレビュー）			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%			撮影機材の名前、管理が学生自身で行えるようになる事。全ての実習項目に出席し、諦めず責任を持って参加する事。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。							
実務経験教員の経歴	国内、国外と映画・テレビカメラマンとして活躍						

科目名	映像概論							
担当教員	宮野 和真		実務授業の有無	<input checked="" type="radio"/>				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	2	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 映像原理及びカメラ構造を理解する 2. レンズ特性を知り、絞り及びピントフォーカスのコントロール 3. 上記を踏まえた、カメラオペレーティング							
学習目標 (到達目標)	自分が創造したイメージを正確に映像化をする。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	撮影基礎Ⅰ			撮影原理・カメラ構造Ⅰ				
2	撮影基礎Ⅱ			撮影原理・カメラ構造Ⅱ				
3	撮影基礎Ⅲ			撮影原理・カメラ構造Ⅲ				
4	撮影基礎Ⅳ			撮影原理・カメラ構造Ⅳ				
5	撮影基礎Ⅴ			撮影原理・カメラ構造Ⅴ				
6	撮影基礎Ⅵ			レンズ特性・絞りと被写界震度Ⅰ				
7	撮影基礎Ⅶ			レンズ特性・絞りと被写界震度Ⅱ				
8	撮影基礎Ⅷ			レンズ特性・絞りと被写界震度Ⅲ				
9	撮影基礎Ⅸ			レンズ特性・絞りと被写界震度Ⅳ				
10	撮影実習Ⅰ			状況に応じた撮影機材の選定方法Ⅰ				
11	撮影実習Ⅱ			状況に応じた撮影機材の選定方法Ⅱ				
12	撮影実習Ⅲ			画角の考え方、撮影方法Ⅰ				
13	撮影実習Ⅳ			画角の考え方、撮影方法Ⅱ				
14	撮影実習Ⅴ			画角の考え方、撮影方法Ⅲ				
15	短編映像制作実習Ⅰ			短編映像制作Ⅰ				
16	短編映像制作実習Ⅱ			短編映像制作Ⅱ				
17	短編映像制作実習Ⅲ			短編映像制作（プレビュー）				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%				演出に応じた適切な撮影機材の選択が学生自身で行えるようになる事。全ての実習項目に出席し、諦めず責任を持って参加する事。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	国内、国外と映画・テレビカメラマンとして活躍							

科目名	異文化研究							
担当教員	安川嘉文		実務授業の有無	×				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	4	開講時期	後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	38時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 19×2コマ 2. 提携大学：台南芸術大学での授業受講 3. (台湾) 海外の文化・流行・生活を体験することで異文化を学ぶ							
学習目標 (到達目標)	海外の映像・アニメなどの知識習得							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	資料など配布							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	異文化研修について			異文化研修についてのイントロダクション				
2	台湾講座1			台湾基礎知識（民族・言語・国土面積・通貨・気候等）				
3	台湾講座2			台湾基礎知識（芸能・文化・慣習・教育等）				
4	台湾講座3			現地旅行会社のガイドとスカイプで中国語講座				
5	異文化芸術鑑賞			台湾制作、または台湾を題材、テーマにした映像作品を鑑賞				
6	海外研修旅行準備			海外渡航における注意点・準備物について				
7	海外研修旅行準備			自由行動計画を立てる				
8	海外研修旅行準備			自由行動計画を立てる提出・現地課題の配布				
9	海外研修旅行準備			海外研修旅行説明会（持ち物・服装・行程などの最終ガイダンス）				
10	台湾：異文化研修							
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%				観客を入れての上映会になります。授業の一環というよりプロ意識を持って臨んで下さい。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴								

科目名	映像舞台制作実習						
担当教員	宮野和真		実務授業の有無	○			
対象学科	映画プロデュース科		対象学年	1	開講時期		
必修・選択	必修		単位数	一	単位時間数		
授業概要、目的、授業の進め方	1. 19日×6コマ 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施						
学習目標 (到達目標)	前期授業の集大成としての映像作品の制作および上映会						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	映像制作に必要なテープ、画コンテ用紙などは配布します。						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	企画立案			どんな作品を作るか (テーマ・ジャンル・内容など)			
2	企画立案			どんな作品を作るか (テーマ・ジャンル・内容など)			
3	企画立案			どんな作品を作るか (テーマ・ジャンル・内容など)			
4	企画立案			どんな作品を作るか (テーマ・ジャンル・内容など)			
5	制作準備			画コンテの作成など			
6	制作準備			画コンテの作成など			
7	制作準備			機材チェック、取材許可、キャスティング、ロケハン等			
8	制作準備			機材チェック、取材許可、キャスティング、ロケハン等			
9	制作準備			機材チェック、取材許可、キャスティング、ロケハン等			
10	制作準備			機材チェック、取材許可、キャスティング、ロケハン等			
11	制作			撮影・編集・MA			
12	制作			撮影・編集・MA			
13	制作			撮影・編集・MA			
14	制作			撮影・編集・MA			
15	制作			撮影・編集・MA			
16	制作			撮影・編集・MA			
17	制作			撮影・編集・MA			
18	制作			撮影・編集・MA			
19	作品上映会			評価			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%			観客を入れての上映会になります。授業の一環というよりプロ意識を持って臨んで下さい。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。							
実務経験教員の経歴	国内、国外と映画・テレビカメラマンとして活躍						

科目名	映像舞台制作実習							
担当教員	宮野和真		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	2	開講時期	前期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	94時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 15日×6コマ+1日×4コマ 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施							
学習目標 (到達目標)	前期授業の集大成としての映像作品の制作および上映会							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	映像制作に必要なテープ、画コンテ用紙などは配布します。							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	企画立案			どんな作品を作るか（テーマ・ジャンル・内容など）				
2	企画立案			どんな作品を作るか（テーマ・ジャンル・内容など）				
3	企画立案			どんな作品を作るか（テーマ・ジャンル・内容など）				
4	企画立案			どんな作品を作るか（テーマ・ジャンル・内容など）				
5	制作準備			画コンテの作成など				
6	制作準備			画コンテの作成など				
7	制作準備			機材チェック、取材許可、キャスティング、ロケハン等				
8	制作準備			機材チェック、取材許可、キャスティング、ロケハン等				
9	制作準備			機材チェック、取材許可、キャスティング、ロケハン等				
10	制作準備			機材チェック、取材許可、キャスティング、ロケハン等				
11	制作			撮影・編集・MA				
12	制作			撮影・編集・MA				
13	制作			撮影・編集・MA				
14	制作			撮影・編集・MA				
15	制作			撮影・編集・MA				
16	作品上映会			評価				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%				観客を入れての上映会になります。授業の一環というよりプロ意識を持って臨んで下さい。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	国内、国外と映画・テレビカメラマンとして活躍							

科目名	映像舞台制作実習							
担当教員	宮野和真		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	3	開講時期	前期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	132時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 22日×6コマ 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施							
学習目標 (到達目標)	前期授業の集大成としての映像作品の制作および上映会							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	映像制作に必要なテープ、画コンテ用紙などは配布します。							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	企画立案			どんな作品を作るか（テーマ・ジャンル・内容など）				
2	企画立案			どんな作品を作るか（テーマ・ジャンル・内容など）				
3	企画立案			どんな作品を作るか（テーマ・ジャンル・内容など）				
4	企画立案			どんな作品を作るか（テーマ・ジャンル・内容など）				
5	制作準備			画コンテの作成など				
6	制作準備			画コンテの作成など				
7	制作準備			機材チェック、取材許可、キャスティング、ロケハン等				
8	制作準備			機材チェック、取材許可、キャスティング、ロケハン等				
9	制作準備			機材チェック、取材許可、キャスティング、ロケハン等				
10	制作準備			機材チェック、取材許可、キャスティング、ロケハン等				
11	制作			撮影・編集・MA				
12	制作			撮影・編集・MA				
13	制作			撮影・編集・MA				
14	制作			撮影・編集・MA				
15	制作			撮影・編集・MA				
16	制作			撮影・編集・MA				
17	制作			撮影・編集・MA				
18	制作			撮影・編集・MA				
19	制作			撮影・編集・MA				
20	制作			撮影・編集・MA				
21	制作			撮影・編集・MA				
22	作品上映会			評価				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%				観客を入れての上映会になります。授業の一環というよりプロ意識を持って臨んで下さい。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	国内、国外と映画・テレビカメラマンとして活躍							

科目名	映像舞台制作実習							
担当教員	宮野和真		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	4	開講時期	前期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	102時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 17日×6コマ 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施							
学習目標 (到達目標)	前期授業の集大成としての映像作品の制作および上映会							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	映像制作に必要なテープ、画コンテ用紙などは配布します。							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	企画立案			どんな作品を作るか（テーマ・ジャンル・内容など）				
2	企画立案			どんな作品を作るか（テーマ・ジャンル・内容など）				
3	企画立案			どんな作品を作るか（テーマ・ジャンル・内容など）				
4	企画立案			どんな作品を作るか（テーマ・ジャンル・内容など）				
5	制作準備			画コンテの作成など				
6	制作準備			画コンテの作成など				
7	制作準備			機材チェック、取材許可、キャスティング、ロケハン等				
8	制作準備			機材チェック、取材許可、キャスティング、ロケハン等				
9	制作準備			機材チェック、取材許可、キャスティング、ロケハン等				
10	制作準備			機材チェック、取材許可、キャスティング、ロケハン等				
11	制作			撮影・編集・MA				
12	制作			撮影・編集・MA				
13	制作			撮影・編集・MA				
14	制作			撮影・編集・MA				
15	制作			撮影・編集・MA				
16	制作			撮影・編集・MA				
17	作品上映会			評価				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%				観客を入れての上映会になります。授業の一環というよりプロ意識を持って臨んで下さい。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	国内、国外と映画・テレビカメラマンとして活躍							

科目名	社会人常識マナー検定							
担当教員	鈴木 則子		実務授業の有無	×				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	1	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 社会人、組織の一員として必要不可欠な社会常識を理解する。 2. 人として必要な知識やビジネスマナーを修得する。 3. 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を修得する。							
学習目標 (到達目標)	1.社会常識を理解する。2.ビジネス計算力を身につける。3.立居振舞い、言葉遣いなどを身につける。 4.ビジネスマナーの基礎を理解する。5.社会人常識マナー検定3級合格を目指す。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	公益社団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定テキスト2・3級 公益社団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定第21回～第28回過去問題集3級							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	社会人常識マナー検定試験について 社会と組織1			社会人としての自覚やキャリア、会社組織について。テキストP1～20				
2	社会と組織2			組織と役割、社会変化とその対応。テキストP22～32				
3	仕事と組織			目標の重要性、主体性と組織運営。テキストP34～54				
4	一般常識1			社会常識の基礎用語。漢字など。テキストP56～70				
5	一般常識2			社会常識の基礎用語。用語など。テキストP70～86				
6	ビジネスコミュニケーション 言葉遣い			人間関係とコミュニケーション。敬語と話し方。テキストP102～144				
7	ビジネス文書			ビジネス文書の特徴。社内文書。テキストP146～156				
8	ビジネスマナー			組織の一員としてのマナー。来客対応。テキストP176～196				
9	定期試験			テストと解説。				
10	電話対応			電話対応の重要性。電話の受け方、掛け方の心得。テキストP202～214				
11	交際業務			慶事・弔辞のマナー。テキストP128～238				
12	文書類の受け取りと発送			受発信文書の取り扱い。オフィス環境。テキストP242～249				
13	計算			ビジネスにおける計算。数式。テキストP90～99				
14	日本			都道県名・県庁所在地・各県の特色など。				
15	検定対策①			過去問題の解説、確認。				
16	検定対策②			過去問題の解説、確認。				
17	検定対策③			過去問題の解説、確認。				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%				社会人として必要なマナーや知識を修得。検定合格は勿論のこと、社会への意識を高めさせたい。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	専門学校教員として19年間、学生の育成に従事。							

映像・声優・俳優専攻ゼミ							
担当教員	宮野和真（コーディネーター）		実務授業の有無	○			
対象学科	映画プロデュース科		対象学年	1	開講時期		
必修・選択	必修		単位数	一	単位時間数		
授業概要、目的、授業の進め方	1. 5日×6コマ（初回授業のみ7コマ） 2. 特別講師を招いての授業およびワークショップ 3. 現場で活躍する著名な方の授業を受けることでのモチベーション向上および最新知識の習得 4. 新潟だけでなく東京などの研修も含む						
学習目標 (到達目標)	一流のプロフェッショナルから学ぶことで職業に対する意欲および意識の向上						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特別講師プロフィールおよびテキストプリントの配布						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
2	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
3	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
4	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
5	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
レポート提出80%、授業態度および意欲20%			講師はその都度、状況によって変わります。来校が決まり次第お知らせします。また、授業終わりにレポートの提出があります。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。							
実務経験教員の経歴	国内、国外と映画・テレビカメラマンとして活躍						

科目名	映像・声優・俳優専攻ゼミ						
担当教員	宮野和真（コーディネーター）		実務授業の有無		○		
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	2	開講時期	後期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	29時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. 5日×6コマ（初回授業のみ7コマ） 2. 特別講師を招いての授業およびワークショップ 3. 現場で活躍する著名な方の授業を受けることでのモチベーション向上および最新知識の習得 4. 新潟だけでなく東京などの研修も含む						
学習目標 (到達目標)	一流のプロフェッショナルから学ぶことで職業に対する意欲および意識の向上						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特別講師プロフィールおよびテキストプリントの配布						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
2	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
3	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
4	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
5	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
レポート提出80%、授業態度および意欲20%							
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			講師はその都度、状況によって変わります。来校が決まり次第お知らせします。また、授業終わりにレポートの提出があります。				
実務経験教員の経歴		国内、国外と映画・テレビカメラマンとして活躍					

科目名	映像・声優・俳優専攻ゼミ						
担当教員	宮野和真（コーディネーター）		実務授業の有無		○		
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	3	開講時期	後期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	29時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. 5日×6コマ（初回授業のみ7コマ） 2. 特別講師を招いての授業およびワークショップ 3. 現場で活躍する著名な方の授業を受けることでのモチベーション向上および最新知識の習得 4. 新潟だけでなく東京などの研修も含む						
学習目標 (到達目標)	一流のプロフェッショナルから学ぶことで職業に対する意欲および意識の向上						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特別講師プロフィールおよびテキストプリントの配布						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
2	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
3	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
4	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
5	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
レポート提出80%、授業態度および意欲20%							
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			講師はその都度、状況によって変わります。来校が決まり次第お知らせします。また、授業終わりにレポートの提出があります。				
実務経験教員の経歴		国内、国外と映画・テレビカメラマンとして活躍					

科目名	映像・声優・俳優専攻ゼミ						
担当教員	宮野和真（コーディネーター）		実務授業の有無	○			
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	4	開講時期	後期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	29時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. 5日×6コマ（初回授業のみ7コマ） 2. 特別講師を招いての授業およびワークショップ 3. 現場で活躍する著名な方の授業を受けることでのモチベーション向上および最新知識の習得 4. 新潟だけでなく東京などでの研修も含む						
学習目標 (到達目標)	一流のプロフェッショナルから学ぶことで職業に対する意欲および意識の向上						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特別講師プロフィールおよびテキストプリントの配布						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
2	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
3	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
4	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
5	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
レポート提出80%、授業態度および意欲20%							
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			講師はその都度、状況によって変わります。来校が決まり次第お知らせします。また、授業終わりにレポートの提出があります。				
実務経験教員の経歴		国内、国外と映画・テレビカメラマンとして活躍					

科目名	演技・映像業界研究						
担当教員	宮野和真（コーディネーター）		実務授業の有無		○		
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	1	開講時期	前期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	30時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. 5日×6コマ 2. 特別講師を招いての授業およびワークショップ 3. 現場で活躍する著名な方の授業を受けることでのモチベーション向上および最新知識の習得 4. 新潟だけでなく東京などの研修も含む						
学習目標 (到達目標)	一流のプロフェッショナルから学ぶことで職業に対する意欲および意識の向上						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特別講師プロフィールおよびテキストプリントの配布						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
2	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
3	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
4	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
5	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
レポート提出80%、授業態度および意欲20%							
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			講師はその都度、状況によって変わります。来校が決まり次第お知らせします。また、授業終わりにレポートの提出があります。				
実務経験教員の経歴		国内、国外と映画・テレビカメラマンとして活躍					

科目名	演技・映像業界研究						
担当教員	宮野和真（コーディネーター）		実務授業の有無		○		
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	2	開講時期	前期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	45時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. 7日×6コマ+3コマ 2. 特別講師を招いての授業およびワークショップ 3. 現場で活躍する著名な方の授業を受けることでのモチベーション向上および最新知識の習得 4. 新潟だけでなく東京などの研修も含む						
学習目標 (到達目標)	一流のプロフェッショナルから学ぶことで職業に対する意欲および意識の向上						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特別講師プロフィールおよびテキストプリントの配布						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
2	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
3	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
4	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
5	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
6	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
7	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
8	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
レポート提出80%、授業態度および意欲20%							
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			講師はその都度、状況によって変わります。来校が決まり次第お知らせします。また、授業終わりにレポートの提出があります。				
実務経験教員の経歴		国内、国外と映画・テレビカメラマンとして活躍					

科目名	演技・映像業界研究						
担当教員	宮野和真（コーディネーター）		実務授業の有無		○		
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	3	開講時期	前期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	45時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. 7日×6コマ+3コマ 2. 特別講師を招いての授業およびワークショップ 3. 現場で活躍する著名な方の授業を受けることでのモチベーション向上および最新知識の習得 4. 新潟だけでなく東京などの研修も含む						
学習目標 (到達目標)	一流のプロフェッショナルから学ぶことで職業に対する意欲および意識の向上						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特別講師プロフィールおよびテキストプリントの配布						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
2	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
3	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
4	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
5	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
6	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
7	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
8	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
レポート提出80%、授業態度および意欲20%							
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			講師はその都度、状況によって変わります。来校が決まり次第お知らせします。また、授業終わりにレポートの提出があります。				
実務経験教員の経歴		国内、国外と映画・テレビカメラマンとして活躍					

科目名	演技・映像業界研究						
担当教員	宮野和真（コーディネーター）		実務授業の有無		○		
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	4	開講時期	前期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	45時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. 7日×6コマ+3コマ 2. 特別講師を招いての授業およびワークショップ 3. 現場で活躍する著名な方の授業を受けることでのモチベーション向上および最新知識の習得 4. 新潟だけでなく東京などの研修も含む						
学習目標 (到達目標)	一流のプロフェッショナルから学ぶことで職業に対する意欲および意識の向上						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特別講師プロフィールおよびテキストプリントの配布						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
2	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
3	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
4	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
5	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
6	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
7	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
8	特別講師によるワークショップ			映画監督・プロデューサー・俳優など			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
レポート提出80%、授業態度および意欲20%							
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			講師はその都度、状況によって変わります。来校が決まり次第お知らせします。また、授業終わりにレポートの提出があります。				
実務経験教員の経歴		国内、国外と映画・テレビカメラマンとして活躍					

科目名	実践行動学						
担当教員	朝倉隆司		実務授業の有無	×			
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	1	開講時期	前期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	18時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. 前期1回、後期2回実施 2. 人間力（自主性・プラス思考・実行力など）の育成 3. Part 1～Part 3を毎回グループに分かれて実施						
学習目標 (到達目標)	将来に対する目標設定・プラス思考・働くことへのモチベーション向上						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	実践行動学テキスト配布 実践行動学研究所						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	Part 1 マジックドア1			夢と目標 P1～P7			
2	Part 1 マジックドア2			誤った思い込みと言い訳 P8～P13			
3	Part 1 マジックドア3			行動のよりどころと心構え P14～P22			
4	Part 1 マジックドア4			まず第1歩を P23～P32			
5	Part 1 マジックドア5			目標設定しよう P33～P38			
6	Step Up Sheet			目標設定達成の振り返り P39～P42			
7	Part 2 マジックドア1			プラス思考が自分の能力・可能性を大きく広げる P1～P4			
8	Part 2 マジックドア2			考え方を変えれば行動が変わる P5～P11			
9	Part 2 マジックドア3			あなたの問題は、あなたが解決できる P12～P19			
10	Part 2 マジックドア4			あなたのコミュニケーションスタイルを見直そう P20～P27			
11	Part 2 マジックドア5			目標が才能・可能性を開花させる P28～P32			
12	Step Up Sheet			目標設定達成の振り返り P34～P36			
13	Part 3 マジックドア1			入学から今日までの成長を実感しよう P1～P4			
14	Part 3 マジックドア2			働く自分をイメージしてみよう P5～P10			
15	Part 3 マジックドア3			自分が最大限に活きる働き方とは P11～P15			
16	Part 3 マジックドア4			将来を描いてみよう P16～P20			
17	Part 3 マジックドア5			夢実現への第一歩を踏み出そう P21～P24			
18	Step Up Sheet			夢実現整理・行動計画の振り返り P25～P28			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
積極的取り組み40%、発表内容30%、リーダーシップ30%、 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			講師はあくまでも授業の進行役（ファシリテーター）でしかありません。ファシリテーターの指示に従い、グループで授業を進めて下さい。				
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて23年の指導、実践行動学ファシリテーター資格有						

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	総合イベント演習						
担当教員	宮野和真		実務授業の有無	○			
対象学科	映画プロデュース科		対象学年	1	開講時期		
必修・選択	必修		単位数	一	単位時間数		
授業概要、目的、授業の進め方	1. 映像・舞台・コンサート観賞を通じて芸術への関心を高める。 2. 映画祭やイベントに参加することでの人脈作りを図る。						
学習目標 (到達目標)	エンターテインメント業界への関心を高めることで更なる造詣を深める。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	作品に対する詳細な資料など（プリント）						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	映画鑑賞			60年代の映画×3本（レポート提出）			
2	映画鑑賞			70年代の映画×3本（レポート提出）			
3	映画鑑賞			80年代以降の映画×3本（レポート提出）			
4	映画祭・各イベント参加			映画祭・放送局主催のイベントサポート（レポート提出）			
5	映画祭・各イベント参加			映画祭・放送局主催のイベントサポート（レポート提出）			
6	映画祭・各イベント参加			映画祭・放送局主催のイベントサポート（レポート提出）			
評価方法・成績評価基準	履修上の注意						
レポート評価60%、作品鑑賞数30%、学習意欲10%							
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。	授業外で作品鑑賞した場合、レポート提出で加点評価します。						
実務経験教員の経歴	国内、国外と映画・テレビカメラマンとして活躍						

科目名	総合イベント演習						
担当教員	宮野和真		実務授業の有無	○			
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	2	開講時期	前期・後期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	36時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. 映像・舞台・コンサート観賞を通じて芸術への関心を高める。 2. 映画祭やイベントに参加することでの人脈作りを図る。						
学習目標 (到達目標)	エンターテインメント業界への関心を高めることで更なる造詣を深める。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	作品に対する詳細な資料など（プリント）						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	映画鑑賞			60年代の映画×3本（レポート提出）			
2	映画鑑賞			70年代の映画×3本（レポート提出）			
3	映画鑑賞			80年代以降の映画×3本（レポート提出）			
4	映画祭・各イベント参加			映画祭・放送局主催のイベントサポート（レポート提出）			
5	映画祭・各イベント参加			映画祭・放送局主催のイベントサポート（レポート提出）			
6	映画祭・各イベント参加			映画祭・放送局主催のイベントサポート（レポート提出）			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
レポート評価60%、作品鑑賞数30%、学習意欲10%							
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			授業外で作品鑑賞した場合、レポート提出で加点評価します。				
実務経験教員の経歴		国内、国外と映画・テレビカメラマンとして活躍					

科目名	総合イベント演習				
担当教員	宮野和真		実務授業の有無	○	
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	4	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	36時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 映像・舞台・コンサート観賞を通じて芸術への関心を高める。 2. 映画祭やイベントに参加することでの人脈作りを図る。				
学習目標 (到達目標)	エンターテインメント業界への関心を高めることで更なる造詣を深める。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	作品に対する詳細な資料など（プリント）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	映画鑑賞		60年代の映画×3本（レポート提出）		
2	映画鑑賞		70年代の映画×3本（レポート提出）		
3	映画鑑賞		80年代以降の映画×3本（レポート提出）		
4	映画祭・各イベント参加		映画祭・放送局主催のイベントサポート（レポート提出）		
5	映画祭・各イベント参加		映画祭・放送局主催のイベントサポート（レポート提出）		
6	映画祭・各イベント参加		映画祭・放送局主催のイベントサポート（レポート提出）		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
レポート評価60%、作品鑑賞数30%、学習意欲10%					
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			授業外で作品鑑賞した場合、レポート提出で加点評価します。		
実務経験教員の経歴		国内、国外と映画・テレビカメラマンとして活躍			